2023
7

Tokyo Philharmonic Orchestra Season 2023

2023シーズン定期演奏会

# 東京フィルハーモニー交響楽団

©上野隆文

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます
歴史を紡ぎ未来へと奏でるオーケストラの調べを
心ゆくまでお楽しみください

東京フィルハーモニー交響楽団

オフィシャル・サプライヤー

SONY　Rakuten　マルハン　LOTTE　ゆうちょ銀行

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団は上記の企業から特別なご支援をいただいております。

マエストロ　チョン・ミョンフン

# ヴェルディ／歌劇『オテロ』を語る

©上野隆文

『オテロ』は情熱と肉体的な強靭さに満ちていて、
ヴェルディが70代でこの作品を書いたという点でも驚くべきことです。
これは言ってみればオペラ音楽の山頂でもあります。
もちろん、それらを結び合わせたのはシェイクスピアと、
ヴェルディのシェイクスピアへの愛なのです。

ヴェルディはいつも自分にひらめきを与えてくれる
台本とテクストを必要としていました。
これは、ひとつのオペラが何か特別なものを生み出すためには、
とても多くの要素が結び合わされなければならないということの一例です。
そして、シェイクスピアとヴェルディのコンビネーションは
とりわけ特別なものだと思います。

第988回オーチャード定期演奏会
**7月23日(日)15:00開演　Bunkamura オーチャードホール**

第156回東京オペラシティ定期シリーズ
**7月27日(木)19:00開演　東京オペラシティ コンサートホール**

第989回サントリー定期シリーズ
**7月31日(月)19:00開演　サントリーホール**



## 指揮：チョン・ミョンフン

オテロ(ヴェネツィア艦隊の将軍。ムーア人)：グレゴリー・クンデ(テノール)
デズデーモナ(オテロの妻)：小林厚子(ソプラノ)
イアーゴ(オテロの旗手)：ダリボール・イェニス(バリトン)
ロドヴィーコ(ヴェネツィア共和国の使節)：相沢 創(バス)
カッシオ(若い貴族)：フランチェスコ・マルシーリア(テノール)
エミーリア(イアーゴの妻。デスデーモナの侍女)：中島郁子(メゾ・ソプラノ)
ロデリーゴ(ヴェネツィアの紳士)：村上敏明(テノール)
モンターノ(キプロス島政庁のオテロの前任者)：青山 貴(バリトン)
伝令：タン・ジュンボ(バス)
合唱：新国立劇場合唱団(合唱指揮：冨平恭平)
コンサートマスター：近藤 薫

舞台監督：蒲倉 潤(アートクリエイション)
舞台監督助手：井坂 舞、小田藍乃、三浦奈綾
照明：稲葉直人(A.S.G.)
音響：青木 央(フィガロ サウンドワークス)
衣裳・小道具：アートクリエイション、東京衣裳
字幕：本谷麻子
字幕操作：藤原彩加(Zimakuプラス)

カヴァー：山下裕賀(エミーリア)
副指揮：河原哲也
音楽スタッフ：古瀬安子、山中麻鈴

オペラ演奏会形式

# ヴェルディ：歌劇『オテロ』（リコルディ版）

全4幕・日本語字幕付き原語（イタリア語）上演
原作：ウィリアム・シェイクスピア『オセロー』
台本：アッリーゴ・ボーイト

**第1幕** 城砦の外側（約35分）

**第2幕** 城内の1階の広間（約40分）

― 休 憩（約15分）―

**第3幕** 城の大広間（約40分）

**第4幕** デズデーモナの部屋（約35分）

上演時間：約2時間50分（休憩含む）

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団
助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業（創造団体支援））|
独立行政法人日本芸術文化振興会（7/31公演）
公益財団法人 三菱UFJ信託芸術文化財団（7/31公演）、
公益財団法人アフィニス文化財団

「音楽文化の担い手としてのプロ・オーケストラが主催する、わが国ならびに各楽団が活動の重点を置いている地域にとって意義がある企画」を対象としています

後援：日本ヴェルディ協会、日本シェイクスピア協会
協力：Bunkamura（7/23）

♪本公演は全席指定です。指定のお席にご着席ください。演奏開始間際の入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なる席への着席をお願いすることがございます。
♪演奏中のご入場は、固くお断りいたします。楽章間のご入場は楽曲の進行によりスタッフがご案内いたします。入場いただけない場合もございますのでご了承ください。
♪曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。
♪演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。
♪演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。

# 出演者プロフィール

©上野隆文

指揮

## チョン・ミョンフン

Myung-Whun Chung, conductor

東京フィルハーモニー交響楽団 名誉音楽監督

韓国ソウル生まれ。マンネス音楽学校、ジュリアード音楽院でピアノと指揮法を学ぶ。1974年チャイコフスキー国際コンクール ピアノ部門第2位。その後ロスアンジェルス・フィルにてジュリーニのアシスタントとなり、後に副指揮者。ザールブリュッケン放送響音楽監督および首席指揮者（1984～1989）、パリ・オペラ座バスティーユ音楽監督（1989～1994）、ローマ・サンタチェチーリア管首席指揮者（1997～2005）、フランス国立放送フィル音楽監督（2000～2015。現在は名誉音楽監督）、ソウル・フィル音楽監督（2006～2015）、シュターツカペレ・ドレスデンの首席客演指揮者（2012～）など歴任。1997年に本人が創設したアジア・フィルの音楽監督も務める。2022年6月、イタリア共和国功績勲章であるグランドオフィサーの称号を長年にわたるイタリアの文化発展への貢献に対して受勲。2023年3月、イタリア・ミラノのスカラ・フィルハーモニー管弦楽団として初めての名誉指揮者に就任した。

2001年東京フィルハーモニー交響楽団のスペシャル・アーティスティック・アドヴァイザーに就任、2010年より桂冠名誉指揮者、2016年9月に名誉音楽監督に就任。ピアニストとして室内楽公演に出演するほか、アジアの若い演奏家への支援、ユニセフ親善大使、アジアの平和を願う活動など多岐にわたり活躍している。

©Chris Gloag

オテロ（テノール）

## グレゴリー・クンデ

Gregory Kunde, Otello (tenor)

国際的なオペラ舞台で現在最も優れた歌手の一人と評価されているアメリカのテノール歌手グレゴリー・クンデは、世界の一流歌劇場に定期的に出演し、最高峰の指揮者、オーケストラと共演している。クンデの功績は数々の賞で認められており、2016年には国際オペラ賞で最優秀男性歌手賞を受賞した。近年では、ウィーン国立歌劇場、バイエルン国立歌劇場、英国ロイヤル・オペラ、バルセロナ・リセウ大劇場、パリ・オペラ座、モンテカルロ歌劇場等での『オテロ』題名役、ハンブルク国立歌劇場、英国ロイヤル・オペラ、リセウ大劇場での『トゥーランドット』カラフ、メトロポリタン・オペラ『サムソンとデリラ』サムソン、ロサンゼルス・オペラ『イル・トロヴァトーレ』マンリーコ等として出演。フランス作品やイタリア作品のベル・カント役で高い評価を得た後、現在はヴェルディ他のドラマティックなレパートリーの第一人者としての地位を確立している。ロッシーニとヴェルディそれぞれの『オテロ』を同じシーズンに録音した史上唯一のテノールでもある。

©Yoshinobu Fukaya

デズデーモナ（ソプラノ）

## 小林厚子

Atsuko Kobayashi, Desdemona (soprano)

東京藝術大学卒業、同大学大学院修了。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部修了。文化庁海外留学制度研修員としてイタリアで研鑽を積む。デビュー後諸役を経て、2007年藤原歌劇団『蝶々夫人』に抜擢されタイトルロールデビュー。その後『フランチェスカ・ダ・リミニ』『アイーダ』『マクベス』『ドン・ジョヴァンニ』『ナヴァラの娘』などに主演を重ねる。15年『蝶々夫人』で、トラエッタ劇場及びクルチ劇場にてイタリアデビュー。近年では18年新国立劇場『トスカ』の千秋楽公演にて、急遽タイトルロールの代役を務め好評を博す。また同劇場21年3月『ワルキューレ』ジークリンデ、続く5月には『ドン・カルロ』エリザベッタに出演し何れも高い評価を得た。コンサートにおいても演奏会形式ヤナーチェク『イェヌーファ』、ベートーヴェン『第九』『ミサ・ソレムニス』、ヴェルディ『レクイエム』、マーラー『復活』などで活躍している。藤原歌劇団団員。

イアーゴ（バリトン）

## ダリボール・イェニス

Dalibor Jenis, Iago (baritone)

「深みのある豊かな声」（ロサンゼルス・タイムズ紙）と賞賛され、多くの注目を集めるスロバキア出身のバリトン歌手ダリボール・イェニスは、ベッリーニ、ロッシーニ、モーツァルト、ヴェルディ等によるオペラ作品の主役を、世界の主要歌劇場で歌っている。ミラノ・スカラ座、英国ロイヤル・オペラ、パリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、アン・デア・ウィーン劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、バイエルン国立歌劇場、エディンバラ国際音楽祭、ロサンゼルス・オペラ、新国立劇場（東京）、シドニー・オペラ・ハウス、アレーナ・ディ・ヴェローナ、ローマ歌劇場、フィレンツェ五月音楽祭、トリノ王立歌劇場、パレルモ・マッシモ劇場等で、チョン・ミョンフン、ジェイムズ・コンロン、アッシャー・フィッシュ、ダニエレ・ガッティ、ジャナンドレア・ノセダ、レナート・パルンボ、アルベルト・ゼッダ等の一流指揮者と共演している。

ロドヴィーコ（バス）

## 相沢 創

Hajime Aizawa, Lodovico (bass)

国立音楽大学卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第23期生修了。シュトゥットガルト音楽演劇大学コンタクトシュトゥディウム科修了。2009年イタリア・エルコラーノ国際声楽コンクール審査員特別賞。14年ベルギー・ヴェルヴィエ国際声楽コンクール・ヨーロッパサマーフェスト賞（最高位）受賞。第2回マルゲリータ・グリエルミ声楽コンクール第3位。守屋中、角田和弘、S.シュミット、F.アライサ、石野繁生の各氏に師事。08年～13年に、びわ湖ホール声楽アンサンブル専属歌手として活動し沼尻竜典プロデュースオペラ『トゥーランドット』役人等に出演。藤原歌劇団には『ラ・トラヴィアータ』使者でデビュー以降、『フィガロの結婚』バルトロ、『ラ・ボエーム』ベノア、『蝶々夫人』ヤマドリ、『イル・トロヴァトーレ』フェランド等で出演。藤原歌劇団団員。

カッシオ（テノール）

## フランチェスコ・マルシーリア

Francesco Marsiglia, Cassio (tenor)

ナポリに生まれ、サレルノの音楽院を優等で卒業した後、モデナでマジエラ、デスデリ、ブルゾン、カバイヴァンスカ、パヴァロッティ、フレーニに師事。スポレート歌劇場でのリリック国際コンクールで優勝し、世界中の重要な劇場に出演する輝かしいキャリアをスタートさせた。その後チョン・ミョンフン、ダニエレ・カレガリ、ニコラ・ルイゾッティ、リッカルド・ムーティ、ジャナンドレア・ノセダ、ダニエレ・ルスティオーニといった重要指揮者と共演。最近および今後のシーズンでは、パルマ・ヴェルディ音楽祭『二人のフォスカリ』バルバリーゴ、ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵、バーリ歌劇場『ファルスタッフ』フェントン、ボローニャ・テアトロ・コムナーレ『シチリアの晩鐘』マンフレード等の作品に出演している。

エミーリア（メゾ・ソプラノ）

## 中島郁子

Ikuko Nakajima, Emilia (mezzo-soprano)

東京藝術大学卒業。同大学院修了後、渡伊。第14回ロッカ・デッレ・マチエ国際声楽コンクール（伊）第2位、第56回ヴィオッティ国際音楽コンクール（伊）第3位など受賞歴多数。オペラでは、二期会『イル・トロヴァトーレ』アズチェーナ、『蝶々夫人』スズキ、日生劇場『セビリアの理髪師』ロジーナ、『カヴァレリア・ルスティカーナ』サントゥッツァで存在感を示す他、二期会、びわ湖ホール及び東京フィル定期『ファルスタッフ』クイックリー等多くのオペラに出演を重ねている。23年3月東京春祭、R.ムーティ「イタリア・オペラ・アカデミー in 東京」に参加し、『仮面舞踏会』ウルリカを、そして5月には日生劇場『メデア』でネリスを演じ、絶賛を博した。コンサートでも『第九』をはじめ、モーツァルト及びヴェルディ『レクイエム』、マーラーの交響曲等で活躍。東京藝術大学准教授。二期会会員。

ロデリーゴ（テノール）

## 村上敏明

Toshiaki Murakami, Roderigo (tenor)

国立音楽大学卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第17期生修了。2001年から2年間、文化庁派遣芸術家在外研修員としてイタリアのボローニャに留学。04年から五島記念文化財団奨学生として再渡伊、07年に帰国。第9回マダム・バタフライ世界コンクールグランプリ優勝をはじめ、15のコンクールで優勝・上位入賞を果たす。国内でも、第40回日伊声楽コンコルソ第1位、第35回イタリア声楽コンコルソ・シエナ大賞など多数受賞。留学中、オルヴィエートのマンチネッリ劇場公演『リゴレット』マントヴァ公爵でイタリアデビュー後、その後多くの公演に出演。10年にはスポレート音楽祭の招聘でヘンツェ『午後の曳航』（世界初演）に主演し、イタリア国営放送RAIで放送され絶賛を博した。第15回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。藤原歌劇団団員。

モンターノ（バリトン）

## 青山 貴

Takashi Aoyama, Montano (baritone)

東京藝術大学大学院修了。二期会オペラスタジオ及び新国立劇場オペラ研修所修了。イタリアにて研鑽を積む。これまで、新国立劇場鑑賞教室『トスカ』スカルピア、同『蝶々夫人』シャープレス、日生劇場『セビリアの理髪師』フィガロ等出演。びわ湖ホールでは『さまよえるオランダ人』『ファルスタッフ』タイトルロールの他、《びわ湖リング》で『ラインの黄金』『ワルキューレ』ヴォータン、『ジークフリート』さすらい人を演じ成功を収める。その後も、びわ湖ホール『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ハンス・ザックス、東京春祭R.ムーティ「イタリア・オペラ・アカデミー in 東京」に参加し、『仮面舞踏会』レナートで高評を得る。コンサートでも『第九』をはじめブラームス『ドイツ・レクイエム』等出演。指揮者からの信頼も厚い。第6回カルロス・ゴメス国際コンクール第1位（伊）。第19回五島記念文化賞オペラ新人賞。二期会会員。

伝令（バス）

## タン・ジュンボ

Junbo Tang, A Herald (bass)

南京芸術大学でリリック・バスを学ぶ。1992年～94年までインディアナ大学音楽学部で学ぶ。在学中『フィガロの結婚』のフィガロなどを演じる。95年～2000年までメトロポリタン歌劇場に合唱団員として在籍。2000年第12回日本声楽コンクール入選。新国立劇場では『イル・トロヴァトーレ』『オテロ』『運命の力』に出演。新国立劇場合唱団メンバー。

©上野隆文

## 合唱　新国立劇場合唱団（合唱指揮：冨平恭平）

New National Theatre Chorus (Kyohei Tomihira, chorusmaster)

新国立劇場は、オペラ、バレエ、ダンス、演劇という現代舞台芸術のためのわが国唯一の国立劇場として、1997年10月に開場した。新国立劇場合唱団も年間を通じて行われる数多くのオペラ公演の核を担う合唱団として活動を開始。個々のメンバーは高水準の歌唱力と演技力を有しており、合唱団としての優れたアンサンブル能力と豊かな声量は、国内外の共演者およびメディアからも高い評価を得ている。

# 楽曲紹介

解説＝小畑恒夫

## ヴェルディ
## 歌劇『オテロ』

7/23
7/27
7/31

### ■作品の成立背景

ジュゼッペ・ヴェルディ（1813-1901）の24作目になる歌劇『オテロ』は、1887年にミラノのスカラ座で初演された。この初演はオペラ界の大事件になった。1871年に『アイーダ』を発表してから16年間オペラでは沈黙を守っていたヴェルディが、73歳になってついに新作を発表し、しかもそれが前作『アイーダ』よりもはるかに進化した驚くべき作品だったからだ。

『アイーダ』後のヴェルディはサンターガタの農園で畑仕事にいそしんでいた。彼は自分のすべてを出し尽くしたと感じて、半ば引退生活に入っていたのだ。リコルディ出版社はヴェルディに代わって利益をもたらしてくれる若いオペラ作曲家を探し始めていたが、まさにその時、アッリーゴ・ボーイト（1842-1918）がシェイクスピアの『オセロー』を基にオペラの台本を書いていることを知ったのである。ボーイトは批評家、詩人、台本作者、さらに作曲家でもあった多才な知識人で、ヴェルディより30歳ほど若い。最初は熱烈なワーグナー信奉者だったが、歳を重ねるうちにヴェルディの偉大さを理解するようになっていた。彼は『オセロー』のような心理的に複雑なドラマを作曲する能力は自分にはないと悟り、リコルディの勧めで制作中の台本をヴェルディに見せた。

ボーイトの台本はヴェルディの心に再び創作欲を呼び起こした。人間の心の真実をえぐり出すシェイクスピアの戯曲はヴェルディにとってバイブルのような存在だった。『マクベス』以来何度もシェイクスピア作品に取り組もうとしたが、それを自分が思うような台本にしてくれる詩人にめぐり合わなかった。ついにその詩人が現れたのである。

この二人の協働作業は、モーツァルトとダ・ポンテ、R.シュトラウスとホーフマンスタールと並んで、オペラ史における「天恵」とでもいうものだ。ヴェルディと若い詩人は尊敬し合い、相互理解を深め、議論を戦わせながら台本を完成させた。できあ

がった台本は必然的にヴェルディに伝統的な形式からの脱皮を促す斬新なものになった。しかしヴェルディは、年齢にふさわしい豊かな想像力と円熟した作曲技法によって、生涯求め続けてきた「ドラマと音楽の融合」をさらに高いレベルで実現することができたのである。

## ■筋書きと聞きどころ

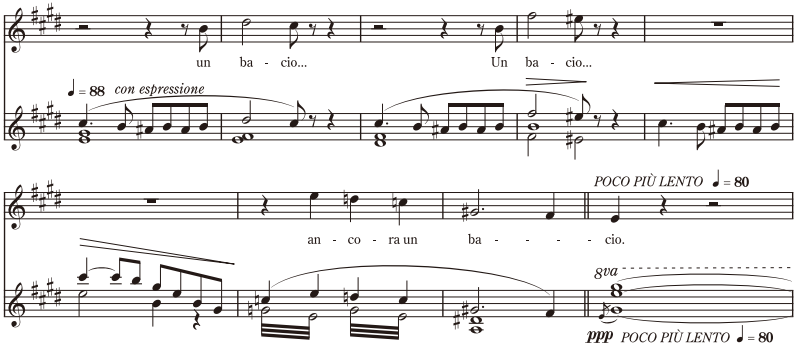
### 第1幕　城砦の外側

序曲はなく、幕開きとともにオーケストラが不協和音を炸裂させて暴風雨を描写する。場所はキプロスの城壁前の港。人々は荒れ狂う海で戦うヴェネツィアとトルコの軍船を不安げに眺め、イアーゴ、カッシオ、モンターノは指揮官オテロの安否を気づかう。伝統的な開幕の合唱に似ているが、合唱とオーケストラが聞き手を即座に興奮の渦に引き込むこのような手法は過去に例がない。将軍オテロの船が接岸すると不安は喜びに転じ、オテロの「**喜べ**」という勝利の叫びで興奮は頂点に達する。

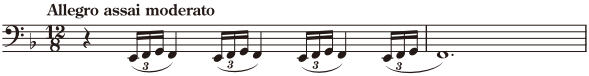
音楽は終止せず次の情景へ流れていく。嵐は収まり、イアーゴとロデリーゴのレチタティーヴォ（語るような歌唱）による対話の後、合唱の「**喜びの火よ**」で宴会になる。「**喉をうるおせ**」はイアーゴがカッシオに無理やり酒を勧めて歌う乾杯の歌。半音階の下降を伴う奇妙な音型はイアーゴの悪意を表し、合唱のリフレインが付いて3回繰り返される間にカッシオは酩酊する。カッシオとモンターノが喧嘩を始め、警鐘も打ち鳴らされて大騒ぎになると、城から出てきたオテロの一喝が群衆を静める。オテロは毅然として部下を尋問し、騒ぎを起こしたカッシオを罷免する。

オテロは群衆を解散させ、新妻デズデーモナと二人で夜の港に残る。ここからチェロの合奏に導かれてヴェルディが書いた最も官能的な二重唱が始まる。二人は出会って好意を持ち合った過去を回想する。幸せの絶頂に恍惚となったオテロは、「この崇高な瞬間はもう将来には訪れないのではないか」と感じて死を願う。これは来るべき悲劇を予感させる。デズデーモナは夫を優しく抱擁し、やがて二人の心が一つになる。オテロは最後に「**口づけを un bacio**」と3度繰り返すが、この印象的なメロディ**【譜例1】**は悲劇の最終場面で再現され、大きな効果を上げる。

**【譜例1】**




**【譜例2】**




## 第2幕　城内の1階の広間

オテロを破滅させるイアーゴの企みが始まる。不気味な悪の動機**【譜例2】**が響く中、イアーゴは元気のないカッシオに、デズデーモナに復職の希望を伝えるよう勧める。去って行くカッシオの後ろ姿を見て「**俺は残忍な神を信じる**」と悪の信条を独りごちる。調性が定まらないこのモノローグ（「クレード」）は、縦横に活躍するオーケストラと相まってイアーゴの邪悪な性格を明らかにする。イアーゴは遠くでカッシオとデズデーモナが話す様子をオテロに見せ、二人の仲が怪しいとほのめかしてオテロの心に嫉妬を芽生えさせる。

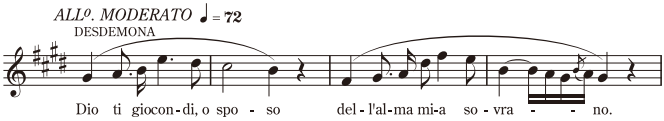
デズデーモナがオテロに近づき、カッシオのためにとりなしをする。夫がひどく取り乱すので、不審に思いながらもデズデーモナは優しく許しを乞う。この二人の対話に加えて、デズデーモナのハンカチを拾ったエミーリアとそれを奪おうとするイアーゴの言い争いが加わり、4人がそれぞれの思いを口にする四重唱になる。ここではデズデーモナの優しいメロディが3人の断片的な言葉をかろうじてつなぎ合わせている。強まる嫉妬に耐え切れなくなったオテロは女たちを去らせ、「**永遠にさらば、神聖な思い出よ**」と短いアリア風の歌で軍人として得た栄光に別れを告げる。しかしふと我に返り、不倫の証拠はどこにあるのだとイアーゴに怒りを爆発させる。イアーゴは忠誠を装いながら、ある夜カッシオが夢の中でデズデーモナを呼んでいた、さらには、カッシオが奥様のハンカチを持っていたと嘘を言う。狡猾

なイアーゴの囁き声は複雑な和声に支えられ、強烈な毒となってオテロを苦しめる。ついにオテロは「**天に向かって誓う**」と血の流れる恐ろしい復讐を宣言し、イアーゴもそれに和す。哮(たけ)り狂うオーケストラと男声のユニゾンが競い合う劇的な幕切れになる。

## 第3幕　城の大広間

夫の疑いを知らないデズデーモナは、再びカッシオの赦免を願い出る。「**ご機嫌はいかがでしょうか Dio ti giocondi, o sposo**」**【譜例3】**で始まる夫婦の二重唱は、相手の心を探り合うような緊張をはらんでいる。与えたハンカチを妻がなくしたことが明らかになると、オテロは「お前は娼婦だったのか」と妻を侮辱し、彼女を追い払う。続くオテロの独白「神よ、あなたは私にあらゆる災難を浴びせてもよかったが」はオーケストラの下降音を伴って悲痛極まりない。

**【譜例3】**




狡猾なイアーゴは、カッシオが実際にデズデーモナのハンカチを持っているところをオテロに見せる。イアーゴは妻から奪ったハンカチをカッシオの家に落としておいたのだ。ここは陽気な艶話に興じる二人の会話にオテロが興奮する三重唱になっている。突然鳴り響くラッパがヴェネツィア大使の到着を告げる。歓迎の準備をしながらオテロは妻の殺害を決意。自分がカッシオを殺すと申し出たイアーゴには副官の地位を約束する。

華やかな歓迎の音楽とともに大使ロドヴィーコが登場し、本国政府の命令をオテロに伝える。命令書にはオテロを本国に召還し、カッシオを後任にするとあった。デズデーモナの暗い顔を見て、彼女がカッシオとの離別を悲しんでいると思い込んだオテロは突然逆上し、妻を公衆の面前で突き倒す。「**地に倒れ、泥にまみれ**」と歌い出すデズデーモナの悲痛なメロディに、同情と不安を語る合唱が続き、壮大なコンチェルタートになる。人々の困惑をよそに、イアーゴとオテロはカッシオの昇進を阻止するため殺害を急ごうと話し合う。興奮したオテロは妻を呪い、彼の錯乱を恐れる人々を威嚇して追い払うが、最後に癲癇の発作で卒倒する。舞台

裏からオテロを「ヴェネツィアの獅子」と讃える声が響くと、イアーゴは気絶したオテロを足蹴にして嘲笑う。

### 第4幕　デズデーモナの部屋

寝室。イングリッシュ・ホルンの悲しげな音色がデズデーモナの不安と死を暗示する。彼女はエミーリアに手伝わせて就寝の準備をしながら「**柳の歌**」を口ずさむ。この「恋人に捨てられた若い乙女の話」はシェイクスピアの原作を踏襲しているが、「私が生まれたのは彼を愛するため、そして彼のために死ぬため」という最後の言葉はボーイトの創作である。デズデーモナは不安に耐えながらエミーリアに最後の挨拶を告げ、「**アヴェ・マリア**」を唱える。繊細な弦の響きを伴う高音のピアニッシモが美しい。

やがてオテロがコントラバスの謎めいた音型とともに登場。原作ではここにオテロの饒舌すぎるほどの独白があるが、オペラではオーケストラが彼の心の苦悩のすべてを雄弁に描き出す。やがて第1幕で聞いた「口づけ」のテーマ**【譜例1】**が響き、目覚めたデズデーモナに死の時が来たことを告げる。オテロは潔白を主張するデズデーモナをオーケストラの切迫した音楽の中で絞め殺す。しかしその直後、飛び込んできたエミーリアとオテロの対話（拍子はなく、芝居のような迫真の語り）の中ですべてはイアーゴの嘘であることが明らかになる。オテロは自分が無垢の最愛の妻を殺してしまったことに絶望し、短刀で自らを刺して妻の後を追う。「オテロの死」と呼ばれる最後のモノローグ「**誰も私を恐れなくてよい**」は、過去の栄光に別れを告げるオテロの姿に、まるでオペラの起源になったギリシャ古典悲劇の英雄のような風格を与えている。

**[原作]**ウィリアム・シェイクスピア『オセロー』　**[台本]**アッリーゴ・ボーイト
**[作曲年代]**1881～1886年　**[初演]**1887年2月5日、ミラノ・スカラ座
**[楽器編成]**フルート3（3番はピッコロ持ち替え）、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン、クラリネット2、バス・クラリネット、ファゴット4、ホルン4、コルネット2、トランペット2、トロンボーン3、チンバッソ、ティンパニ、打楽器（大太鼓、シンバル、タム・タム）、ハープ、ギター、マンドリン、オルガン、弦楽5部　**[バンダ]**オーボエ2、トランペット6、トロンボーン4
※本公演では指揮者の意向によりギター、マンドリン、オルガン、児童合唱は省略される。

おばた・つねお／昭和音楽大学客員教授、NPO日本ヴェルディ協会理事長。「音楽の友」「レコード芸術」などで音楽評論活動を展開。著書に『ヴェルディ（作曲家・人と作品）』『ヴェルディのプリマ・ドンナたち　ヒロインから知るオペラ全26作品』『つながりと流れがよくわかる 西洋音楽の歴史』（共著）、訳書にニコラーオ『ロッシーニ 仮面の男』など。

# Maestro Myung-Whun Chung talks about Verdi's Otello

©Takafumi Ueno

Otello, I have a long history nearly 40 years. It is quite astonishing that his last two operas are so different. One is so full of passion and physical strength, which was astonishing because **Verdi** wrote this in his 70s. In its own way, it is also a sort of a mountain top of opera music, and of course what links them in a way is the **Shakespeare** and Verdi's love for Shakespeare.

In that way, Verdi always needed to be inspired by the libretto and the text, and it is example how in an opera so many elements must come together to produce something special. And I think combination of Shakespeare and Verdi is pretty special.

23 July
27 July
31 July

The 988th Orchard Hall Subscription Concert
**Sun. July 23, 2023, 15:00 at Bunkamura Orchard Hall**

The 156th Tokyo Opera City Subscription Concert
**Thu. July 27, 2023, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall**

The 989th Suntory Subscription Concert
**Mon. July 31, 2023, 19:00 at Suntory Hall**

## Myung-Whun Chung, conductor

23 July
27 July
31 July

Gregory Kunde, Otello (tenor)
Atsuko Kobayashi, Desdemona (soprano)
Dalibor Jenis, Iago (baritone)
Hajime Aizawa, Lodovico (bass)
Francesco Marsiglia, Cassio (tenor)
Ikuko Nakajima, Emilia (mezzo-soprano)
Toshiaki Murakami, Roderigo (tenor)
Takashi Aoyama, Montano (baritone)
Junbo Tang, A Herald (bass)
New National Theatre Chorus (Kyohei Tomihira, chorusmaster)
Kaoru Kondo, concertmaster

Jun Kabakura (Art Creation), stage manager
Mai Isaka / Aino Oda / Naaya Miura, assistant stage managers
Naoto Inaba (A.S.G.), lighting
Hisashi Aoki (Figaro sound works), sound
Art Creation / Tokyo Isho, properties & costume
Asako Honya, surtitles
Ayaka Fujiwara (Zimaku Plus), surtitles operation

Hiroka Yamashita, cover cast
Tetsuya Kawahara, assistant conductor
Yasuko Furuse / Marin Yamanaka, musical preparation

# Verdi: Opera *Otello* (Ricordi version)

Concert-Style Opera in four acts with Japanese surtitles
Libretto by Arrigo Boïto
from William Shakespeare's *Othello*

**Act I** Outside the castle (ca. 35 min)

**Act II** A room on the castle's ground floor (ca. 40 min)

— intermission (ca. 15 min) —

**Act III** The great hall of the castle (ca. 40 min)

**Act IV** Desdemona's bed-chamber (ca. 35 min)

Performance time: ca. 2 hours and 50 minutes (including intermission)

23 July
27 July
31 July

Presented by the Tokyo Philharmonic Orchestra
Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan | Japan Arts Council (31, July),
the Mitsubishi UFJ Trust Foundation for the Arts (31, July),
Affinis Arts Foundation

Supported by the Verdi Society of Japan, the Shakespeare Society of Japan
In Association with Bunkamura (23, July)

♪ All seats are reserved. Late admittance will be refused during the live performance. If you enter or reenter just before the concert or between movements, we may escort you to a seat different from the one to which you were originally assigned.
♪ Exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed.
♪ Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during performance.
♪ Please cherish the "afterglow" at the end of each piece for a moment before your applause.

# Artists Profile

©Takafumi Ueno

## Myung-Whun Chung,
conductor

Honorary Music Director of
the Tokyo Philharmonic Orchestra

23 July
27 July
31 July

Born in Seoul, Myung-Whun Chung won the silver medal at the Tchaikovsky International Piano Competition in 1974. After completing conducting studies at the Juilliard School, he served as assistant and subsequently associate conductor to Carlo Maria Giulini at the Los Angeles Philharmonic. Since his appointment as Music Director of the Paris Opera (L'Opéra Bastille) in 1989, Maestro Chung has conducted many prominent orchestras, including the Vienna Philharmonic, the Berlin Philharmonic, and la Filarmonica della Scala. He served as the Music Director of l'Orchestre Philharmonique de Radio France (2000- 2015), the Seoul Philharmonic Orchestra (2006-2015) and the Asia Philharmonic Orchestra, which he founded in 1997. Since 2012, he has been Principal Guest Conductor of the Staatskapelle Dresden. In June 2022, he received the title of Grand Officer of the Order of Merit of the Republic of Italy for his contributions to Italian cultural development over the years. In March 2023, he became the first-ever Conductor Emeritus of the Filarmonica della Scala in Milan.

For the TPO, Maestro Chung was Special Artistic Advisor (2001- 2010), its Honorary Conductor Laureate (2010-2016). Starting September 2016, he was appointed as Honorary Music Director. He is active in education for the younger generations and in promotion of peace especially in Asia through a variety of musical activities and serving as UNICEF Ambassador.

©Chris Gloag

## Gregory Kunde,
Otello (tenor)

Regarded as one of the most accomplished singers on the international opera stage today, the American tenor Gregory Kunde appears regularly at the most prestigious opera houses around the world, working with conductors and orchestras of the highest caliber. Kunde's achievements have been recognized with a number of awards, including 'Male Singer of the Year' at the 2016 International Opera Awards. Recent highlights include the title role *Otello* at the Wiener Staatsoper, the Bayerische Staatsoper, the Royal Opera House, Covent Garden, the Gran Teatre del Liceu, Opéra National de Paris and Opéra de Monte Carlo, *Turandot* Calaf for Hamburg State Opera, the Gran Teatre del Liceu, *Samson et Dalila* Samson at the Metropolitan Opera, and Manrico *Il Trovatore* for LA Opera. Acclaimed throughout his earlier career for his performances in French and Italian bel canto roles, Kunde has now established himself as a leading exponent of many of the Verdi roles and other such dramatic repertoire. Kunde earned the unique distinction of being the only tenor in recorded history to perform both Rossini *Otello* and Verdi *Otello* in the same season.

23 July
27 July
31 July

©Yoshinobu Fukaya

## Atsuko Kobayashi,
Desdemona (soprano)

Bachelor and Master of Fine Arts, at Tokyo University of the Arts. Completed the training program of Master Class Opera Singers at The Japan Opera Foundation. She moved to Italy as a trainee by the Japanese government, the Agency for Cultural Affairs. Since her debut at The Fujiwara Opera in 2000 as Giannetta from *L'elisir d'amore*, she has made her title role debut in *Madama Butterfly*. She has received high praise for Anita in *La Navarraise* in 2018. She has played the title roles in *Madama Butterfly* and Tosca at Opera Appreciation Class for high school students held in the New National Theatre. She has played Lady Macbeth in *Macbeth*, Donna Anna in *Don Giovanni*, the title role in *Aida*. Also, she has sung for many concerts, such as Beethoven's Symphony No.9 & *Missa Solemnis*, Verdi's *Messa da Requiem*, Mahler's Symphony No.2 "Resurrection". It is fresh in our memory that she substituted the title role in the New National Theatre Opera *Tosca* in 2018 and received high praise. Member of The Fujiwara Opera.

## Dalibor Jenis,
Iago (baritone)

A compelling performer, acclaimed for his “deep and rich voice” (Los Angeles Times), Slovak baritone Dalibor Jenis has sung the leading roles in operas by Bellini, Rossini, Mozart and Verdi in some among the world’s major theaters including Teatro alla Scala, the Royal Opera House, Covent Garden in London, Opéra National de Paris, Wiener Staatsoper, Theater an der Wien, Deutsche Oper Berlin, Bayerische Staatsoper in Munich, Edinburgh Interna- tional Festival, Los Angeles Opera, New National Theatre Tokyo, Opera Australia in Sydney, Arena di Verona, Opera di Roma, Maggio Musicale Fiorentino in Florence, Teatro Regio di Torino, Teatro Massimo di Palermo.

He has worked with such conductors as James Conlon, Myung-Whun Chung, Asher Fisch, Daniele Gatti, Gianandrea Noseda, Renato Palumbo, Alberto Zedda and others.

## Hajime Aizawa,
Lodovico (bass)

Hajime Aizawa graduated from the National Music University and completed the 23rd class of the Opera Singer Training Division of the Japan Opera Foundation. He completed the Kontaktstudium Department at the State University of Music and Performing Arts Stuttgart. Aizawa received the Special Jury Prize at the International Vocal Competition in Ercolano, Italy, in 2009. In 2014 he was awarded the Europe Summer Fest Prize (highest prize) at the Belgium Verviers International Vocal Competition. Aizawa placed 3rd in the 2nd Margherita Guglielmi Vocal Competition. He studied under Naka Moriya, Kazuhiro Tsunoda, S. Schmidt, F. Alaisa, and Shigeo Ishino. From 2008 to 2013, he worked as a resident vocalist for the Biwako Hall Vocal Ensemble, appearing in roles including Mandarin in the opera *Turandot*, produced/conducted by Ryusuke Numajiri. With the Fujiwara Opera Company, Aizawa made his debut as a messenger in *La Traviata* and subsequently appeared in productions such as *Le nozze di Figaro* as Bartolo, *La Bohème* as Benoit, *Madama Butterfly* as Yamadori, and *Il Trovatore* as Ferrando. He is a member of the Fujiwara Opera Company.

## Francesco Marsiglia,
Cassio (tenor)

Born in Naples, Francesco Marsiglia graduated with honor at the Conservatory in Salerno, after that he specialized in Modena with Magiera, Desderi, Bruson, Kabaivanska, Pavarotti, and Freni. As a winner of the Teatro Belli in Spoleto Lyric International Contests, he began a brilliant career that brought him in important theatres all around the world. He has worked with important conductors such as: Myung-Whun Chung; Daniele Callegari; Nicola Luisotti; Riccardo Muti; Gianandrea Noseda; Daniele Rustioni. Among his recent and future engagements: *I due Foscari* (Barbaigo) at the Verdi Festival in Parma; *Il Barbiere di Siviglia* (Count of Almaviva) at the Carlo Felice Theater in Genoa; *Falstaff* (Fenton) at the Petruzzelli Theater in Bari; *I vespri siciliani* (Manfredo) at Theatro Comunale di Bologna.

23 July
27 July
31 July

## Ikuko Nakajima,
Emilia (mezzo-soprano)

Ikuko Nakajima graduated from Tokyo University of the Arts undergraduate and graduate school, and then went to Italy to further her studies. She has won numerous prizes, including the 2nd prize at the Rocca delle Macie International Voice Competition, and the 3rd prize at the Gian Battista Viotti International Music Competition (both in Italy). Nakajima has performed many opera roles to great acclaim, including Azucena in *Il Trovatore* and Suzuki in *Madama Butterfly* for the Nikikai Opera, Rosina in *Il Barbiere di Siviglia* for NISSAY Opera. Recently, she distinguished herself singing Santuzza in *Cavalleria rusticana* at New National Theater Tokyo (NNTT), as well as Quickly in *Falstaff* for Nikikai Opera, Biwako Hall and the Tokyo Phil's subscription concerts. In March 2023, Nakajima participated in Maestro Muti's "Italian Opera Academy in Tokyo" at the Tokyo Spring Festival, where she received rave reviews for her expressive performance in Ulrica in *Un ballo in maschera* and in May for her performance as Nerys in *Medea* at the NISSAY Theater. In concerts, she has been highly acclaimed as a leading soloist for Beethoven's 9th, Mozart and Verdi's Requiems, and Mahler's 3rd. She is a member of Nikikai.

## Toshiaki Murakami,
Roderigo (tenor)

Toshiaki Murakami graduated from Kunitachi College of Music, and completed the 17th class of the Opera Singer Training Division of the Japan Opera Foundation. He studied in Bologna, Italy, for two years from 2001 as an overseas trainee for the Program of Overseas Study for Upcoming Artists awarded by the Agency for Cultural Affairs, and returned to Italy in 2004 as a scholarship student of the Gotoh Memorial Foundation, returning to Japan in 2007. Murakami won the top prizes for 15 other competitions including the Grand Prix at the 9th Madame Butterfly International Competition. Also in Japan, he has received numerous awards, including the First Prize at the 40th Italy-Japan Vocal Music Concorso and the Siena Grand Prize at the 35th Italian Vocal Music Concorso. While studying abroad, Murakami made his Italian debut in *Rigoletto* at the Teatro Mancinelli in Orvieto as Duke of Mantova, followed by many performances. In 2010, at the invitation of the Spoleto Festival, he starred in the world premiere of Henze's *The Sailor Who Fell from Grace With the Sea*, which was broadcast by RAI, the Italian national broadcasting company, to great acclaim. He received the 15th Gotoh Memorial Culture Award for Newcomers to Opera. Murakami is a member of Fujiwara Opera Company.

23 July
27 July
31 July

## Takashi Aoyama,
Montano (baritone)

Aoyama graduated from Tokyo University of the Arts graduate school, and completed the Nikikai Opera studio and New National Theater Opera Studio. He also studied in Italy. He has appeared as Scarpia in *Tosca* and Sharpless in *Madama Butterfly* in New National Theatre Tokyo's performances for students, and as Figaro in *Il barbiere di Sivilia* at the Nissay Theatre, among others. In addition to the title roles in *Der fliegende Holländer* and *Falstaff* at Biwako Hall, he also succeeded in performing the roles of Wotan in *Das Rheingold* and *Die Walküre,* and the Wanderer in *Siegfried* at the Biwako Ring Cycle. Aoyama also sang the role of Hans Sachs of *Die Meistersinger von Nürnberg* at Biwako Hall and participated in the "Italian Opera Academy in Tokyo" of Maestro Muti at the Tokyo Spring Festival, where he received high acclaim for his performance of Renato in *Un ballo in maschera*. He has also appeared in concerts including Beethoven's 9th and Brahms' German Requiem. He is highly valued by many conductors. He won the first prize at the Carlos Gomez International Competition in Italy and received the 19th Gotoh Memorial Culture Award for Newcomers to Opera. A member of Nikikai.

## Junbo Tang,
A Herald (bass)

Born in Nanking, China. Studied lyric bass at Nanking University of Arts. Studied at Indiana University Music Department from 1992-1994. While studying in the school has played Figaro in the *Marriage of Figaro*. From 1995-2000, as chorus member at the Metropolitan Opera. In 2000 selected as a finals for the 12th Japan Vocal Competition. At the New National Theater has appeared in *Il Trovatore*, *Otello*, and *La Forza Del Destino*. Now is a member of New National Theater Chorus.

23 July
27 July
31 July

©Takafumi Ueno

## New National Theatre Chorus,
Chorus (Kyohei Tomihira, chorusmaster)

New National Theatre, Tokyo, has opened in October 1997 as the only national theatre for the modern performing arts of Opera, Ballet, Contemporary Dance and Play. Meanwhile, New National Theatre Chorus has started its career and plays a central role in many Opera performances all through the seasons. Their ensemble ability and rich voices achieved acclaim from costarred singers, conductors, directors, stage staffs as well as domestic and foreign media.

# Program Notes

Text by Robert Markow

## Verdi: Opera *Otello*

*Otello*, Verdi's penultimate work for the stage, is an opera of superlatives. It is generally regarded as one of the most perfect operas ever composed, the greatest based on any of Shakespeare's tragedies, and, along with the same composer's *Falstaff*, the greatest built on Shakespeare. It is one of those few operas in which everything is in perfect balance: music and drama, voice and orchestra, set number and arioso or recitative. It has held the stage ever since its premiere at La Scala in Milan on February 5, 1887. Nine months later it was already being staged in Mexico, and the following year in New York. The libretto, by Arrigo Boïto, is worthy to stand on its own without music – a nearly unique case in nineteenth-century Italian opera.



In 1850, after having written more than a dozen operas, Verdi announced that he planned to write further operas to all of Shakespeare's major plays. It was of course an absurdly ambitious claim, and operaphiles know well that Verdi did not henceforth set a Shakespeare play until he wrote *Otello* and *Falstaff* (based on *The Merry Wives of Windsor* and *King Henry IV*) at the very end of his career. His only previous Shakespeare opera had been *Macbeth* in 1847. Nevertheless, this announcement serves to demonstrate the composer's lifelong love of the Bard of Avon. (He owned two complete sets of Shakespeare's works.) But it was in large part due to the difficulty of finding a librettist capable of turning Shakespeare's blank verse into singable Italian, and of successfully adapting Shakespeare's long, complex storylines into compact plots feasible for the operatic stage, that prevented him from setting more of Shakespeare's dramas. In collaboration with the librettist Antonio Somma, with whom Verdi later produced *Un Ballo in maschera*, he worked extensively on a *King Lear* opera, but in the end burned the effort as unworthy.

Following the huge success of *Aida*, in 1871, Verdi fully intended to retire from the operatic stage and live the rest of his life in comfort and ease. For fifteen years he wrote no new opera, though he did revise *Simon Boccanegra* and turned the French *Don Carlos* into the Italian *Don Carlo*. During this time he also penned the magnificent *Requiem*. But no new opera.

Enter Arrigo Boïto. Boïto (1842-1918) – composer, librettist, poet, critic – had entertained the idea of writing an *Otello* opera himself. As the composer of the highly successful *Mefistofele* (1868/1875) and as librettist for a Hamlet opera by Franco Faccio (*Amleto*, 1865), Boïto felt fully qualified to do so. Nevertheless, in collusion with the publisher Giulio Ricordi and Verdi's conductor-composer-friend Franco Faccio, he instead offered the opportunity to Verdi. For five years the composer stubbornly resisted, but finally agreed to write the opera after he was convinced Boïto could provide him with a proper libretto.



Naturally Boïto had to shorten the play. Shakespeare's *Othello* runs to about 3,500 lines; Verdi's *Otello* (Italian spelling) is under 800. He cut out the entire first act, omitted Cassio's lover Bianca as well as some other minor characters, and pared down the roles of Roderigo and Montano. Iago's wife Emilia is not killed, nor do we learn of the fate of Iago once his treachery is exposed. On the other hand, Boïto added the big choral scenes (beginning of Act I, end of Act III) and some text not in Shakespeare, including Iago's great Credo in Act II. Also in the opera, but not in Shakespeare, is the love scene that ends Act I. In fact, Boïto shifted the focus from Othello as noble statesman in Shakespeare to Otello as devoted but deceived lover in the opera.

Boïto had to rewrite many of Shakespeare's lines that would not have survived direct translation, yet in doing so he nevertheless managed to preserve, writes George Marek in *Opera as Theater*, "the essential characteristics of the three principal protagonists: Othello's immense capacity to love and loathe, Iago's fanatic drive, Desdemona's obtuse

unawareness. The cruelty of the conflict, the deep damnation of Othello's downfall, the relentlessness of the destruction, the simple nobility of the retribution – all these remain in the opera as they are in the play."

Verdi's accomplishment in *Otello* marks a giant step in the development of opera as theater. Much as Wagner had done in Germany, Verdi did in Italy, namely, coalescing vocal music, orchestral music, dramatic credibility and character development into a continuous, unified whole. There are few, if any opportunities for an audience to clap before the end of an act. The music emerges directly from the drama, and characters are clearly drawn by the music Verdi writes for them.



The premiere of *Otello* generated a fury of anticipation such as Milan had rarely, if ever, seen. Here is how Blanche Roosevelt, an American singer who attended the event, described the scene: "[My] carriage had to be sent off long before we reached the door, as the horses could not make their way through the crowd. … I managed to get in whole, and once there the sight was indescribable. La Scala has never before held such an audience, and although it was fully an hour before the time to commence, every seat was occupied." In the orchestra that night was a young cellist named Arturo Toscanini, who would go on to conduct searing accounts of this opera. Also in the pit were two Barbirollis, father and grandfather of another great conductor, Sir John, who years later also led memorable performances of *Otello*.

Following that momentous first performance, Verdi was recalled to the stage twenty times. "The emotion was something indescribable, and many wept," recounted Blanche Roosevelt. "At five in the morning I had not closed my eyes in sleep for the crowds still singing and shrieking 'Viva Verdi! viva Verdi!' Who shall say that this cry will not reecho all over the world?" How true her words!

## SYNOPSIS

**ACT I Outside the castle**

The scene is Cyprus, late fifteenth century. A violent storm is raging

as citizens throng the port, praying that the ship bearing Otello, General of the Venetian army, will make it safely to shore. Otello's ship does land safely, and he steps ashore with news that the enemy fleet he had engaged in combat is now at the bottom of the sea. All rejoice. The storm abates, and conversation ensues between Otello's ensign Iago and Roderigo, a Venetian nobleman in love with Otello's wife Desdemona. Iago expresses his hatred of Otello, as he (Iago) has been passed over for a promotion that went to Cassio instead. Their conversation is interrupted by the Fire Chorus, as Cypriots describe the flashing, sparkling bonfire that lights up the night sky. Cassio joins the conversation. Iago craftily gets the crowd into a drinking mood, the purpose of which is to get Cassio so drunk that he loses control of himself and provokes Otello into demoting him from his new rank of captain. When the tumult subsides, it is time for the great love duet. The orchestration is pared down to chamber music proportions, images of storm and war are replaced by those of a starry night sky. The dialog between Otello and Desdemona embraces words not only of love, but of trust, contentment, sincerity, and tenderness. The "kiss" (*bacio*) motif floats serenely through the orchestra.



**ACT II A room on the castle's ground floor**

Iago, posing as a friend, advises the disgraced Cassio to ask Desdemona to intercede on his behalf with Otello. Then comes Iago's famous Credo, a frightening portrayal of nihilism and evil incarnate. It is one of the most electrifying moments in all Verdi. Upon its conclusion Desdemona is seen walking through the nearby garden. Cassio approaches her and presents his case. With perfect timing for Iago's plot, Otello enters and Iago, ever so subtly, proceeds to sow the seeds of doubt in Otello's mind, suggesting that Desdemona might not be as faithful to him as he might think. Passing Cypriots sing a song of praise to Desdemona while Otello struggles with the awful notion that Iago just might be right about his wife. Desdemona chooses this absolutely wrong moment to plead Cassio's case with Otello, causing him to react violently. At the same time, Iago's wife Emilia retrieves the handkerchief Desdemona has just dropped, whereupon Iago forces it from her hand with the intention of planting it in Cassio's home as "proof" that Desdemona is having an affair with him. With the quartet

over, the ladies leave, and Otello remains on stage with Iago. Mad with doubt and suspicion, he fumes and rages over the apparent illusion of his happy marriage. When Iago tells Otello he saw Cassio with Desdemona's handkerchief (the first token of love between him and Desdemona), Otello breaks out in fury and cries for blood. The act ends with Otello and Iago singing the magnificent Vengeance Duet. Iago's poison has thoroughly rotted Otello's mind.

**ACT III The great hall of the castle**

The first part of Act III is taken up with a long dialog between Otello and Desdemona. It starts calmly enough, but when Desdemona mentions the word "Cassio," Otello erupts. Desdemona attempts to wipe his perspiring brow with a handkerchief, but Otello furiously demands to see the special one (now in Iago's possession). Desdemona, all sweetness and innocence, cannot understand her husband's frame of mind, and becomes totally distraught when he challenges her fidelity and even calls her a "filthy whore." Emotions are at a boiling point. It is at this moment that Otello first thinks of murdering his wife. Cassio enters for a chat with Iago while Otello eavesdrops from behind a pillar. To lightly bantering music, Iago tricks Cassio into describing his relation with his lover Bianca, thereby duping Otello into thinking it is Desdemona Cassio is talking about. Adding fuel to the fire, Iago lures Cassio into describing – and showing him – the handkerchief Iago had planted in Cassio's dwelling. Otello is now absolutely certain of Desdemona's treachery. He and Iago plot her death. A ship bearing Venetian dignitaries arrives in port, the occasion for a magnificent choral passage with brass fanfares. Virtually the entire cast is now onstage. Over the course of a complex ensemble scene, we see Otello in the final stages of mental collapse, Desdemona in utter despair over her husband's incomprehensible behavior, and Iago exulting in triumph. Otello abuses Desdemona verbally, then strikes her violently before an aghast crowd. He commands the crowd to leave, and collapses on the floor in abject misery as Iago, standing over the fallen hero, mocks "the Lion of Venice" while, with consummate irony, the crowd outside sings his praises ("Long live Otello!).

**ACT IV　Desdemona's bed-chamber**

Act IV belongs mostly to Desdemona. Still having no idea why her husband has been behaving so vilely toward her, she prepares for bed, thoroughly confused and distraught. The act opens with an orchestral introduction featuring the poignant, melancholic sound of the English horn. Sitting before a mirror as her maid Emilia combs her hair, Desdemona sings a song she recalls from years ago when her mother's maid sang it, a despondent account of a girl who was jilted by her lover and died singing the song of the willow tree (*salce*). After Emilia leaves, Desdemona seeks comfort in the image of the Madonna at her prayer desk. Kneeling before it, she sings the *Ave Maria*, her simple but profoundly moving prayer to the Madonna. She goes to bed. Otello enters. Again he accuses her of infidelity, which she vehemently denies. A moment after killing her, Emilia runs in with the startling news that Cassio has survived Roderigo's attempt to assassinate him. The latter revealed all of Iago's treacherous scheming before dying, and Emilia reveals further truths regarding the handkerchief. Otello, in a fit of unbearable grief, stabs himself and dies. The opera ends quietly, with a bittersweet memory of the kiss motif that ended Act I.

23 July
27 July
31 July

**GIUSEPPE VERDI**: Born in Le Roncole, October 10, 1813; died in Milan, January 27, 1901
**Original work**: William Shakespeare's *Othello*
**Libretto**: Arrigo Boïto　**Work composed**: 1881-1886
**World premiere**: February 5, 1887 at the Teatro alla Scala in Milan
**Instrumentation**: 3 flutes (3rd doubling on piccolo), 2 oboes, English horn, 2 clarinets, 4 bassoons, 4 horns, 2 cornets, 2 trumpets, 3 trombones, cimbasso, timpani, percussion (bass drum, cymbals, tam-tam), harp, guitar, mandorin, organ, strings
[banda] 2 oboes, 6 trumpets, 4 trombones
* Our conductor has decided to omit guitar, mandolin, organ, and children's chorus in this production.

Formerly a horn player in the Montreal Symphony, **Robert Markow** now writes program notes for orchestras as well as for numerous other musical organizations in North America and Asia. He taught at Montreal's McGill University for many years, has led music tours to several countries, and writes for numerous leading classical music journals.

## 2023 season Subscription Concerts Lineup

***"Alongside its overwhelming plethora of culturing offerings, the Japanese capital is host to several orchestras, the most prestigious among them being the Tokyo Philharmonic. This season combines venerable elder musicians with fiery young soloists and conductors"*** -- Bachtrack

In 2023, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrates its 112th anniversary of Japan's first symphony orchestra. Join us for the ultimate concert experience! Single tickets are now available.

### October

Single tickets available

**conductor: Chloé Dufresne** **violin: Lina Nakano**

Wed, Oct 18, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Thu, Oct 19, 19:00
at Suntory Hall

Sun, Oct 22, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

Lili Boulanger:
Of a Spring Morning
<The 130th anniversary of Lili Boulanger's birth>

Saint-Saëns:
Violin concerto No. 3

Berlioz:
Symphonie fantastique

### November

Single tickets available

**conductor: Andrea Battistoni,** chief conductor **cello: Haruma Sato**

Fri, Nov 10, 19:00
at Suntory Hall

Sun, Nov 12, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

Thu, Nov 16, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Tchaikovsky:
The Tempest
Variations on a Rococo Theme
Hamlet
Romeo and Juliet Fantasy Overture
<The 130th anniversary of Tchaikovsky's death>

**Inquiries about tickets.**

Tokyo Phil Ticket Service tel: 03-5353-9522 (weekdays 10:00-18:00, closed on weekends and holidays)

Tokyo Phil WEB Ticket Service https://www.tpo.or.jp/en/

# 東京フィルだより ― 2023年シーズン今後の定期演奏会

## 10月の定期演奏会

クロエ・デュフレーヌ ©Capucine de Chocqueuse

中野りな ©kisekimichiko

第157回東京オペラシティ定期シリーズ
10月18日(水) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール

第990回サントリー定期シリーズ
10月19日(木) 19:00 サントリーホール

第991回オーチャード定期演奏会
10月22日(日) 15:00 Bunkamura オーチャードホール

指揮：クロエ・デュフレーヌ
(2021年ブザンソン国際指揮者コンクール聴衆賞、オーケストラ賞)
ヴァイオリン：中野りな＊(2022年仙台国際音楽コンクール優勝)

リリ・ブーランジェ／春の朝に
(リリ・ブーランジェ生誕130年)
サン=サーンス／ヴァイオリン協奏曲第3番＊
ベルリオーズ／幻想交響曲

## 11月の定期演奏会

アンドレア・バッティストーニ ©上野隆文

佐藤晴真 ©Seiichi Saito

第992回サントリー定期シリーズ
11月10日(金)19:00　サントリーホール

第993回オーチャード定期演奏会
11月12日(日)15:00　Bunkamura オーチャードホール

第158回東京オペラシティ定期シリーズ
11月16日(木)19:00　東京オペラシティ コンサートホール

指揮：アンドレア・バッティストーニ(首席指揮者)
チェロ：佐藤晴真＊
(2019年ARDミュンヘン国際音楽コンクール優勝)
〈チャイコフスキー没後130年〉
チャイコフスキー／
　幻想曲『テンペスト』
　ロココの主題による変奏曲＊
　幻想序曲『ハムレット』
　幻想序曲『ロメオとジュリエット』

【料金】1回券　SS¥15,000　S¥10,000　A¥8,500　B¥7,000　C¥5,500
※東京フィルフレンズ(年会費無料・随時入会受付中)入会で、定価の10%割引で購入いただけます(SS席を除く)。

お申込み・お問合せは
東京フィルチケット
サービスまで

03-5353-9522(10時～18時／発売日を除く土日祝休)
https://www.tpo.or.jp/ (24時間受付・座席選択可)

10月の定期演奏会は東京フィル初登場、日本デビューとなるフランスのクロエ・デュフレーヌが登場。ヴァイオリニスト中野りなとの共演で、19～20世紀フランス作曲家の魅力的なプログラムをお届けします。生誕130年を迎える夭折の作曲家リリ・ブーランジェの作品も注目。6月初旬にパリで取材したデュフレーヌの談話とともにその経歴を紹介します。　取材・文＝岡田ヴィクトリア朋子（音楽ジャーナリスト）

2020年東京オリンピックの閉会式でのフランス大会のプレゼンテーションで、フランス国立管弦楽団を指揮してフランス国歌ラ・マルセイエーズを演奏するビデオが映し出され、一挙に日本の人々に知られるようになった**クロエ・デュフレーヌ**。翌年のブザンソン国際指揮者コンクールでは3人のファイナリストの中に残り、聴衆賞、オーケストラ賞、審査員特別賞を受賞。現在ロサンゼルスでグスターボ・ドゥダメルのアシスタントを務めるなど、注目度が急激に高まっている。一体どんなバックグラウンドを持った人なのだろうか。6月初め、パリのフィルハーモニーでアマチュアオーケストラ（といっても実力はプロ級）を指揮するというので、コンサートの前に実際に彼女に会いに行った。その内容も交えて、彼女の魅力を紹介したい。

## 音楽にあふれた子供時代

ロサンゼルスとフランスを両拠点に活動するデュフレーヌ。幼少期からオペラに親しんできたという©Yves Petit

最初に音楽に触れたのはピアノで、5歳ぐらいの時に、あるピアノ演奏を聴いて母親に自分もピアノを習いたいと言ったのが始まりだという。その後8歳で地元モンペリエの音楽院に入学。半日は普通の小学校、半日は音楽院という特別カリキュラムでヴィオラと歌を始めた。同時にモンペリエ・オペラの少年少女合唱団員として舞台に立ち始め、時には子役ソリストも務めた。当時の合唱指揮者が女性で、素晴らしい指導をしてくれたこともあり、すでに、彼女のように人々に音楽の楽しみを伝えられる人になりたいと思っていたそうだ。オペラでは子供の合唱団の出番は少ないので待ち時間が多く、「その間舞台裏で画面に映る指揮者の姿に魅了されていた」と語る。このように、彼女の原点となっているのは、合唱団員、ソリストとして歌い、音楽院オケでヴィオラを演奏するという、音楽にあふれた子供時代の経験なのだ。

## 指揮者として

合唱団の指揮者に魅せられた彼女は、音楽院で友達を集めて合唱や器楽アンサンブルなどを指揮するようになった。それは、自分が皆を「指揮」して統率したいというよりは、友達とお互いに助け合って皆で音楽をしたい、という望みからのものだった。そんな中でアマチュアオーケストラを頻繁に指揮するようになり、本格的な勉強をするためにパリのエコール・ノルマル音楽院に入学。ディプロマを得た後、2015年から、最前線で活躍する多くの指揮者を輩出しているヘルシンキの名門シベリウス・アカデミーでみっちりと学んだ。ここでの5年半に、プロとしての基本を叩き込まれたのだ。その間、2018～19年には、交換留学制度を利用してパリ国立高等音楽院に入

アカデミーでの指揮姿も
©Theresa Pewal

学しアラン・アルティノグリュ（ブリュッセル・モネ劇場芸術監督）のもとでも研鑽を重ねた。2021年にはマルコとブザンソンの国際指揮者コンクールにたった3ヶ月のインターバルで参加。マルコでは3位に入賞。そして今、ドゥダメルのアシスタントを務めるに至っている。

## 東京フィル指揮で日本に初登場

今年生誕130年を迎えた夭折の作曲家リリ・ブーランジェ（1893-1918）

東京フィルハーモニー交響楽団の10月の定期演奏会で日本デビューを飾る彼女。フランス音楽プログラムで注目なのは**リリ・ブーランジェ**の『**春の朝に**』だろう。室内楽版とオーケストラ版があり、最近活発に取り上げられている女性作曲家の作品の中でも演奏頻度が高い。5分ほどの小曲だが「みずみずしい息吹にあふれた秀作でオーケストレーションも素晴らしく、自然を扱ったテーマは日本文化にある自然への慈しみと通ずるものがあるので、日本の方々にも好んでいただけるのでは」と語る。日本人には、感情をあからさまにはしないが内面的な強さを持っているというイメージがあり、それはラテン気質で物事を本能的に感じ取るという彼女自身の性格とは反対なので、それがどのように音楽に映し出されていくのかが楽しみだ、と語った。**ベルリオーズ**の『**幻想交響曲**』は外に向かった曲だが、「舞踏会」や「野の風景」には繊細さがあり、「一方的に観点を押し付けるのではなく、自分の感性を通じて、見方、感じ方を分かち合いたい」と抱負を語る。それは、中野りなとの初顔合わせとなる**サン=サーンス**の「**ヴァイオリン協奏曲第3番**」でも同じ。「フランス音楽は自分のアイデンティティーをつくっている重要な要素なので、これを存分に日本の皆様に聴いていただけたら」と、今から日本公演を大いに心待ちにしている様子が印象的だった。

俊英・中野りなとはサン=サーンス「ヴァイオリン協奏曲第3番」で共演
©kisekimichiko

岡田ヴィクトリア朋子（おかだ・ヴィクトリア・ともこ）／パリ・ソルボンヌ大学で音楽学博士号を取得。2005年よりフランス、ベルギー等で執筆活動を開始、その傍ら、音楽・美術分野で翻訳家として活動。白水社クセジュ文庫から訳書『西洋音楽史年表』『オペレッタ』『100語でわかるクラシック音楽』を出版。国際音楽評論家協会理事、フランス演劇・音楽・ダンス職業評論家協会理事、フランス文芸翻訳家協会会員。日仏クラシック音楽マガジンvivace-cantabile.com主催。
note : Victoria Okada

## News & Information

### オーケストラ・キャラバン～オーケストラと心に響くひとときを～
### 東京フィルハーモニー交響楽団 特別公演

©Hikaru Hoshi

©YUJI INAGAKI

**日時**　2023年8月20日（日） 15:00開演（14:15開場）

**会場**　東広島芸術文化ホール くらら 大ホール

**曲目**　チャイコフスキー／
歌劇『エフゲニー・オネーギン』より ポロネーズ
ワックスマン／カルメン幻想曲*
服部良一／蘇州夜曲*
服部克久／晩秋のアダージョ*
服部隆之／Les enfants de la Terre～地球のこどもたち*（『世界遺産』メインテーマ曲）
服部隆之／『真田丸』メインテーマ*
ラフマニノフ／交響曲第2番《ラフマニノフ生誕150年記念》

**出演**　角田鋼亮（指揮）、服部百音*（ヴァイオリン）
東京フィルハーモニー交響楽団（管弦楽）

**料金**（全席指定・税込）S席¥4,000　A席¥3,000　B席¥2,000　学生（大学生以下）¥1,000
※未就学児はご入場いただけません。

**チケット問合せ**　東広島芸術文化ホールくらら 082-426-5990（10:00～19:00）
インターネット https://kurara-hall.jp/ticket/

※学生券はくららインターネット・くらら電話・窓口のみのお取り扱い。公演当日は必ず学生証をお持ちください。

### オーケストラ・キャラバン～オーケストラと心に響くひとときを～
### 東京フィルハーモニー交響楽団 特別公演
### 東京フィルの「午後のコンサート」in 門真

©山本倫子

**日時**　2023年9月2日（土） 14:00開演（13:15開場）

**会場**　門真市民文化会館ルミエールホール 大ホール

**曲目**　ベートーヴェン／
劇音楽『エグモント』序曲
ピアノ協奏曲第5番『皇帝』*
交響曲第6番『田園』より第1楽章
交響曲第7番より第2楽章、交響曲第3番『英雄』より第4楽章

**出演**　小林研一郎（指揮とお話）、中川優芽花*（ピアノ）
東京フィルハーモニー交響楽団（管弦楽）

**料金**（全席指定・税込）S席¥4,000　A席¥2,500　学生（高校生以下・座席選択可）¥1,000
※未就学児はご入場いただけません。

**チケット問合せ**　門真市民文化会館ルミエールホール 06-6908-5300（9:00～22:00／火曜休館）
チケットぴあ https://t.pia.jp/（Pコード：245-855）

## 7月からオーボエ・セクションに岡村彩香が入団いたしました。

「皆様、はじめまして、オーボエの岡村彩香です。吹奏楽っ子だった私が、初めて生で聴いたオーケストラが東京フィルでした。今その東京フィルの一員になれたこと、とても嬉しく思います。

幅広いジャンルで素敵な音楽をお届けできるよう、心豊かに、皆様と楽しさを共有していけたらと思います。これからどうぞよろしくお願い致します」。

## 7月からクラリネット・セクションに鳥潟さくらが入団いたしました。

「みなさん、はじめまして。鳥潟さくらです。

小さな町の吹奏楽部で始めたクラリネット、留学先のフランスで出会ったバスクラリネット。知れば知るほど魅力的なこの2つの楽器を通して沢山の作品に出会い、幅広いスタイルの音楽を東京フィルの一員として演奏できることを心から嬉しく思っています。お客様に素敵な時間をお届けできるよう頑張ります」。

**11月定期演奏会の聴きどころ、**
**東京フィルWEBで特別記事公開中!**

©寺澤有雅

## 2023シーズン　今後の定期演奏会

112年目を迎えた東京フィルの2023シーズン定期演奏会、当楽団が誇るマエストロたちと次代を担う音楽家たちとともに大好評開催中です。10月はフランスの新星クロエ・デュフレーヌによるフランス・プログラム、11月は首席指揮者アンドレア・バッティストーニによる、オール・チャイコフスキー・プログラムです。お聴き逃しなく！

---

**10月**

**指揮: クロエ・デュフレーヌ**
（2021年ブザンソン国際指揮者コンクール聴衆賞、オーケストラ賞）

**ヴァイオリン: 中野りな***
（2022年仙台国際音楽コンクール優勝）

第157回 10月18日（水）19:00
東京オペラシティ コンサートホール

第990回 10月19日（木）19:00
サントリーホール

第991回 10月22日（日）15:00
Bunkamura オーチャードホール

リリ・ブーランジェ／春の朝に
（リリ・ブーランジェ生誕130年）
サン=サーンス／
ヴァイオリン協奏曲第3番*
ベルリオーズ／幻想交響曲

◀ 聴きどころは
こちらから

1回券発売中

---

**11月**

**指揮:**
**アンドレア・バッティストーニ**
（首席指揮者）

**チェロ: 佐藤晴真***
（2019年ARDミュンヘン国際音楽コンクール優勝）

第992回 11月10日（金）19:00
サントリーホール

第993回 11月12日（日）15:00
Bunkamura オーチャードホール

第158回 11月16日（木）19:00
東京オペラシティ コンサートホール

チャイコフスキー／
幻想曲『テンペスト』
ロココの主題による変奏曲*
幻想序曲『ハムレット』
幻想序曲『ロメオとジュリエット』
（チャイコフスキー没後130年）

◀ 聴きどころは
こちらから

1回券発売中

---

お問合せ　東京フィルチケットサービス

Tel 03-5353-9522（平日10時～18時・土日祝日休／発売日の土日祝は10時～16時）

URL www.tpo.or.jp/（24時間受付・座席選択可）

詳細は

## 午後のコンサート。2023シーズンのラインナップ

「午後のコンサート」2023シーズンは、4回セット券でご来場されるお客様が3シリーズで9割を超え、シーズンを通してオーケストラの名曲と音楽家のとっておきのお話をお楽しみいただいております。ただ今、販売中の1回券は残り僅か。皆様のご来場をお待ちしております。

### 渋谷の午後のコンサート　会場:Bunkamuraオーチャードホール　開演14:00

**9月18日(月・祝)**
第19回
〈秋の大感謝祭〉
指揮とお話:
角田鋼亮
ゲスト(ピアノ):
園田隆一郎*
三ツ橋敬子*

1回券
発売中

©Fabio Parenzan
©Hikaru Hoshi　©Earl Ross

ベルリオーズ／序曲『ローマの謝肉祭』
サン=サーンス／動物の謝肉祭*
レスピーギ／交響詩『ローマの祭』
外山雄三／管弦楽のためのラプソディ

※東急百貨店本店跡地の再開発に伴い、「渋谷の午後のコンサート」は当面の間、週末の開催になります。

**11月5日(日)**
第20回
〈なんでもOKストラ!!〉
指揮とお話:
円光寺雅彦
ピアノ:
清塚信也*

1回券
8月発売

©三浦興一　©Yuji Takeuchi

グリンカ／
歌劇『ルスランとリュドミュラ』序曲
ラフマニノフ／
ピアノ協奏曲第2番より第2楽章*
ベートーヴェン／
ピアノ協奏曲第5番『皇帝』より第3楽章*
チャイコフスキー／
『くるみ割り人形』より“金平糖の踊り”
ラヴェル／ボレロ
※11月6日「平日の午後のコンサート」と同演目です。

### 平日の午後のコンサート　会場:東京オペラシティ コンサートホール　開演14:00(託児可)

**8月7日(月)**
第31回
〈真夏の午後の夢〉
指揮とお話:
出口大地
ピアノ:
清水和音*

予定枚数
終了

©hiro.pberg_berlin　©Mana Miki

ハチャトゥリアン／
劇音楽『仮面舞踏会』より“ワルツ”
グリーグ／ピアノ協奏曲より第1楽章*
ベルリオーズ／幻想交響曲より

**11月6日(月)**
第32回
〈なんでもOKストラ!!〉
指揮とお話:
円光寺雅彦
ピアノ:
清塚信也*

1回券
8月発売

©三浦興一　©Yuji Takeuchi

グリンカ／
歌劇『ルスランとリュドミュラ』序曲
ラフマニノフ／
ピアノ協奏曲第2番より第2楽章*
ベートーヴェン／
ピアノ協奏曲第5番『皇帝』より第3楽章*
チャイコフスキー／
『くるみ割り人形』より“金平糖の踊り”
ラヴェル／ボレロ
※11月5日「渋谷の午後のコンサート」と同演目

## 休日の午後のコンサート　会場:東京オペラシティ コンサートホール　開演14:00(託児可)

### 9月3日(日)
第98回
〈コバケンのベートーヴェン!〉
指揮とお話:
小林研一郎
ピアノ:
中川優芽花(※)*

予定枚数終了

©上野隆文

ベートーヴェン／
劇音楽『エグモント』序曲
ピアノ協奏曲第5番『皇帝』*
※当初の予定から変更になりました。
交響曲第6番『田園』より第1楽章
交響曲第7番より第2楽章
交響曲第3番『英雄』より第4楽章

### 12月3日(日)
第99回
〈クリスマス in ニューヨーク〉
指揮とお話:
円光寺雅彦
ヴァイオリン:
廣津留すみれ*

1回券
8月発売

©K.Miura ©Ryuto Kurokawa

アンダーソン／舞踏会の美女
モンティ／チャールダーシュ*
エルガー／愛のあいさつ*
サラサーテ／ツィゴイネルワイゼン*
ワルトトイフェル／スケーターズ・ワルツ
チャイコフスキー／
バレエ組曲『くるみ割り人形』

※9月3日公演のソリストならびに楽曲が当初発表から変更となっております。

## 午後のコンサート。2023シーズンの発売スケジュールについて

**◆8月7日・9月3日公演　予定枚数終了**
**◆9月18日公演　1回券発売中**
**◆11月・12月公演1回券の発売スケジュール**

| | |
|---|---|
| 最優先※お電話のみ(賛助会員様、定期会員様) | 8/22(火)10:00 |
| 優先※お電話のみ(東京フィルフレンズ会員様) | 8/26(土)10:00 |
| 優先(WEB優先発売) | 8/26(土)10:00〜9/4(月)23:59 |
| 一般発売 | 9/5(火)10:00 |

| チケット料金 | S席 | A席 | B席 | C席 |
|---|---|---|---|---|
| 1回券(定価) | ¥5,700 | ¥4,600 | ¥3,100 | ¥2,100 |
| (東京フィルフレンズ会員) | ¥5,130 | ¥4,140 | ¥2,790 | ¥1,890 |

※1回券は4回セット券の販売後、残席ある場合のみ販売いたします。
すでに残席が少ないシリーズやセット券で完売している席種もございます。詳しくはお問合せください。

お問合せ・お申込み　東京フィルチケットサービス
03-5353-9522(平日10時〜18時／土日祝休　発売日の土日祝のみ10時〜16時で営業)
東京フィルWEBチケットサービス　https://www.tpo.or.jp/

## Photo Reports　2023年6月の演奏会より

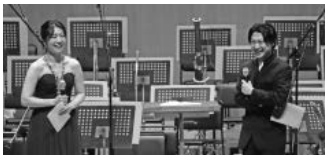
6月の最初の自主演奏会は人気の長寿シリーズ「休日の午後のコンサート」（指揮とお話は出口大地）、そして定期演奏会を含む4公演は桂冠指揮者・尾高忠明と俊英ピアニスト亀井聖矢さんとのプログラム。名匠と若き才能の共演は高い関心を呼び、各公演とも多くのお客様でにぎわいました。

写真＝渡邊智也（6/22）、上野隆文（6/25）

### 第97回 休日の午後のコンサート〈よくばりヴァイオリン〉（6/11）

指揮とお話：出口大地 / ヴァイオリン：松田理奈＊
コンサートマスター：三浦章宏

ハチャトゥリアン／バレエ音楽『ガイーヌ』より“剣の舞”
ヴィヴァルディ／『四季』より「春」＊
チャイコフスキー／ヴァイオリン協奏曲より第1楽章＊
メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲より第3楽章＊
【ソリスト・アンコール】イザイ／無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第3番「バラード」より
ベートーヴェン／交響曲第5番『運命』
【オーケストラ・アンコール】ハチャトゥリアン／バレエ音楽『ガイーヌ』よりレズギンカ



マエストロ出口と松田理奈さんの愉しいお話も会場を盛り上げました

ヴィヴァルディ『四季』は小編成の弦楽合奏とのアンサンブルで

### オーケストラ・キャラバン ～オーケストラと心に響くひとときを～福山特別公演（6/22）

会場：ふくやま芸術文化ホール リーデンローズ
指揮：尾高忠明（桂冠指揮者）
ピアノ：亀井聖矢＊（2022年ロン=ティボー国際音楽コンクール優勝）
コンサートマスター：近藤 薫

ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第2番＊
ラフマニノフ／交響曲第1番

6月定期直前の「オール・ラフマニノフ」は広島県福山市で。県外からもたくさんのお客様が来場され、注目の公演を楽しまれました

ホールの愛称「リーデンローズ（Reed & Rose）」は、福山市内を流れる芦田川（葦田川）の"葦"（Reed）と市の花であるバラ（Rose）に因んでつけられたそう

## 6月定期演奏会　(6/23、25、27)

指揮：尾高忠明(桂冠指揮者)
ピアノ：亀井聖矢＊(2022年ロン=ティボー国際音楽コンクール優勝)
コンサートマスター：近藤 薫

尾高惇忠／オーケストラのための『イマージュ』〈ラフマニノフ生誕150年〉
ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第2番＊
ラフマニノフ／交響曲第1番

桂冠指揮者・尾高忠明

ラフマニノフのアニヴァーサリーを祝うプログラムで、名曲「ピアノ協奏曲第2番」を俊英・亀井聖矢さんと

最後のカーテンコールでは各公演、客席に向けてお話をされたマエストロ尾高。コンサートの最後に「東京フィルと共演して50年。兄(尾高惇忠)の作品やラフマニノフの難しい交響曲第1番を素晴らしく演奏してくれた。ソリストの亀井さんもすばらしい」と喜びを込めて語られました。

### ご報告　日本ヴェルディ協会&東京フィル in ぶらあぼオンライン〈ヴェルディ『オテロ』を知る〉

6月には、7月定期演奏会ヴェルディ『オテロ』に向けたオンライン・イベントを開催しました。東京フィルのYoutubeチャンネルでアーカイブ動画をご覧いただけます。

【第1回】6月2日(金)収録〔出演：小畑恒夫(音楽評論家・昭和音楽大学客員教授)／小林厚子(ソプラノ歌手・デズデーモナ役)／ナビゲーター：河野典子(音楽評論家・日本ヴェルディ協会事務局長)〕

【第2回】6月16日(金)収録〔出演：近藤薫(コンサートマスター)、斉藤和志(フルート首席奏者)、片岡夢児(コントラバス首席奏者)、ナビゲーター：河野典子(音楽評論家・日本ヴェルディ協会事務局長)〕

# ハチャトゥリアンの『剣の舞』とドヴォルザークの『新世界より』

東京大仏 乗蓮寺　住職
若林 隆壽

東京フィルゆかりの方々に、クラッシック音楽に魅了されたきっかけや音楽生活について綴っていただく本連載。第19回は、住職として寺院を経営しつつ、長年、災害被災地やフリースクール等の支援活動に携わっておられる若林隆壽様です。後援会員として東京フィルをご支援くださっています。小学生時代のお父上との思い出を綴ってくださいました。

1963年2月、旧ソビエト連邦の作曲家、アラム・ハチャトゥリアンが、名ヴァイオリニストのレオニード・コーガンと共に来日し、自身の作品を自ら指揮するというコンサートが開かれました。61年4月に開館したばかりの東京文化会館で、（記憶に間違いがなければ）アンコール曲として演奏されたのが、バレエ『ガイーヌ』最終幕の楽曲『剣の舞』でした。圧倒的なスピード感はもちろんのこと、まだ小学2年生だった私が見惚れたのはハチャトゥリアンのダイナミックな指揮でした。その日を境に頭の中には『剣の舞』が鳴り響き、タクト代わりの菜箸を、両親があきれるほどに振り続けていたことをはっきりと覚えています。生の指揮と演奏とを、父と並びの席で目の当たりにした瞬間が、クラシック音楽との出会いだったのです。

次のエポック・メイキングは、1964年3月に我が家にステレオがやってきたことでした。64年はアジアで初めての、前回の「東京オリンピック」が開催された年であり、当時は1ドル＝360円の固定相場制で、海外もそしてステレオもまだまだ遠い存在の時代でした。

その時父が買い与えてくれたのは、セントラル・パークを背景に聳え立つ摩天楼が未知の世界への憧れをかき立てるジャケットの、

小学生の時から60年近く大切にしてこられた、ドヴォザーク『新世界より』、スメタナ『モルダウ』のLPレコード。
ラベルの「ステレオ・フォニック」の文字が、往時の「ステレオ」の目新しさを物語っています。

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団演奏、ドヴォルザークの交響曲第9番（当時は第5番）『新世界より』のLPでした。レコード盤に慎重に針を置き、左右のスピーカーの中央に座って演奏の開始を待ちます。

第1楽章、郷愁に満ちたチェロの旋律から印象的なホルンの主題、第2楽章の「家路」、第3楽章の情熱的なスケルツォを経て、トランペットとトロンボーンによる壮大な第4楽章へと向かう高揚感。その時覚えた全宇宙を前に独り立ったような不思議な感覚は、幼いながらも深く心に刻まれました。

私が育った浅草の寺は、1945年3月の「東京大空襲」で灰燼に帰し、戦後は全くのゼロからのスタートでした。1956年の生まれの私は本当の苦しい時期を経験した訳ではありませんが、そんな境遇でありながら、少年時代から優れた音楽に触れる機会を与えてくれた父には今でも感謝しています。

私が20年以上東京フィルの後援を続けている一番の理由は、毎年8月15日の「終戦記念日」に「家族で平和を考える」をコンセプトに開催される「ハートフルコンサート」、とても解りやすい『楽しいオーケストラ図鑑』（小学館）の発行、さらに、青少年対象の巡回公演など、子どもから大人まで楽しめるプログラムが充実していることにあります。今後も、小さいうちから「本物」を聴くことのできる場を提供し続けていただきたいと願っています。

若林隆壽（わかばやし・りゅうじゅ）／1956年東京生まれ。東京大仏乗蓮寺を始め4ヶ寺の住職。浄土宗特任布教師。浄土宗総本山知恩院顧問。大本山増上寺布教師会常務理事。一般社団法人茶道裏千家淡交会東京第二東支部支部長。公益財団法人鎌倉能舞台理事。防災士。趣味は写真撮影（柴田昌勝門下）。

乗蓮寺の東京大仏は、悲惨な戦災や震災が起きないようにとの願いを込めて、1977年4月に建立された露座の大仏（阿弥陀如来）。東京都選出の「新東京百景」の一つ。

ひまわりが日に日に背を伸ばすこのごろ、
皆様におかれましてはますますご健勝のことと存じます。
今月は、オペラ演奏会形式でヴェルディの傑作オペラを上演いたします。
マエストロが日本では10年ぶりに指揮をふる演目を、ぜひご堪能ください。
引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団 理事長　三木谷 浩史

# 賛助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、皆様のご寄附により支えていただいております。
ここに法人ならびに個人賛助会員（パートナー会員）の皆様のご芳名を掲げ、
改めて御礼申し上げます。

## オフィシャル・サプライヤー（敬称略）

| | | |
|---|---|---|
| **ソニーグループ株式会社** | 代表執行役　社長 COO 兼 CFO | **十時 裕樹** |
| **楽天グループ株式会社** | 代表取締役会長兼社長 | **三木谷 浩史** |
| **株式会社マルハン** | 代表取締役 会長 | **韓 昌祐** |
| **株式会社ロッテ** | 代表取締役社長執行役員 | **牛膓 栄一** |
| **株式会社ゆうちょ銀行** | 取締役兼代表執行役社長 | **池田 憲人** |

## 法人会員

### 賛助会員（五十音順・敬称略）

**（株）IHI**
代表取締役社長　井手 博

**（株）アイエムエス**
取締役会長　前野 武史

**（医）相澤内科医院**
理事長　相澤 研一

**アイ・システム（株）**
代表取締役会長　松﨑 務

**（株）アシックス**
取締役会長　尾山 基

**（株）インターテクスト**
代表取締役　海野 裕

**ANAホールディングス（株）**
代表取締役社長　芝田 浩二

**（株）NHKエンタープライズ**
代表取締役社長　有吉 伸人

**大塚化学（株）**
特別相談役　大塚 雄二郎

**（株）オーディオテクニカ**
代表取締役社長　松下 和雄

**（公財）オリックス宮内財団**
代表理事　宮内 義彦

**カシオ計算機（株）**
代表取締役 社長 CEO 兼 CHRO　増田 裕一

**キヤノン（株）**
代表取締役会長兼社長 CEO　御手洗 冨士夫

**（株）グリーンハウス**
代表取締役社長　田沼 千秋

**サントリーホールディングス（株）**
代表取締役社長　新浪 剛史

**信金中央金庫**
理事長　柴田 弘之

**(株)J.Y.PLANNING**
代表取締役　遅澤 准

**(株)滋慶**
代表取締役社長　田仲 豊徳

**(株)ジーヴァエナジー**
代表取締役社長　金田 直己

**菅波楽器(株)**
代表取締役社長　菅波 康郎

**相互物産(株)**
代表取締役会長　小澤 勉

**ソニーグループ(株)**
代表執行役　社長 COO 兼 CFO 十時 裕樹

**ソニー生命保険(株)**
代表取締役社長　髙橋 薫

**(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント**
代表取締役社長CEO　村松 俊亮

**(株)大丸松坂屋百貨店**
代表取締役社長　澤田 太郎

**都築学園グループ**
総長　都築 仁子

**東急(株)**
取締役社長　堀江 正博

**東京オペラシティビル(株)**
代表取締役社長　長島 誠

**東レ(株)**
代表取締役社長　大矢 光雄

**TOPPANエッジ(株)**
代表取締役社長　添田 秀樹

**DOWAホールディングス(株)**
代表取締役社長　関口 明

**(株)ニチイケアパレス**
代表取締役社長　秋山 幸男

**(株)ニフコ**
取締役会長　山本 利行

**日本ライフライン(株)**
代表取締役社長　鈴木 啓介

**(株)パラダイスインターナショナル**
代表取締役　新井 秀之

**富士電機(株)**
代表取締役会長 CEO　北澤 通宏

**(株)不二家**
代表取締役社長　河村 宣行

**(株)三井住友銀行**
頭取CEO　福留 朗裕

**三菱地所(株)**
執行役社長　中島 篤

**三菱倉庫(株)**
相談役　宮崎 毅

**(株)三菱UFJ銀行**
特別顧問　小山田 隆

**ミライラボバイオサイエンス(株)**
代表取締役　田中 めぐみ

**(株)明治**
代表取締役社長　松田 克也

**森ビル(株)**
代表取締役社長　辻 慎吾

**ヤマトホールディングス(株)**
代表取締役社長　長尾 裕

**(株)山野楽器**
代表取締役社長　山野 政彦

**ユニオンツール(株)**
代表取締役会長　片山 貴雄

**(医)ユベンシア**
理事長　今西 宏明

**楽天グループ(株)**
代表取締役会長兼社長　三木谷 浩史

**(株)リソー教育**
取締役会長　岩佐 実次

## 後援会員

**(株)アグレックス**
代表取締役社長　山本 修司

**(医)エレソル　たにぐちファミリークリニック**
理事長　谷口 聡

**欧文印刷(株)**
代表取締役社長　和田 美佐雄

**(有)オルテンシア**
代表取締役　雨宮 睦美

**(医)カリタス菊山医院**
理事長　加藤 徹

**(医)だて内科クリニック**
理事長　伊達 太郎

**(宗)東京大仏・乗蓮寺**
代表役員　若林 隆壽

**(一財)凸版印刷三幸会**
代表理事　金子 眞吾

**(株)トレミール**
代表取締役　茶谷 幸司

**(株)日税ビジネスサービス**
代表取締役会長兼社長　吉田 雅俊

**(株)ネスト**
代表取締役　太田 潤

**富士通(株)**
代表取締役社長　時田 隆仁

**本田技研工業(株)**
取締役　代表執行役社長　三部 敏宏

**三菱電機(株)**
執行役社長　漆間 啓

## ご支援の御礼とお願い

昨今の社会情勢において、皆様からたくさんの励ましのお言葉とともに、東京フィルに温かいご支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団は、1911年（明治44年）に創設され、この西洋発祥の音楽文化を日本の近代化の中でいちはやく受容し、様々な試行錯誤を繰り返しつつ、音楽を社会に届けるという使命を貫いて参りました。

東京フィルは世界でも数少ない自主運営の楽団です。

今後もさらに安定的・発展的な財政基盤を構築し、いっそうの発展をはかるために、皆様のご寄附が力となります。

皆様におかれましては、あらためて当団を取り巻く状況についてご理解を賜りますとともに、一層のご支援・ご助力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。東京フィルが取り組む、実り豊かな未来を創る活動へのご支援をお願い申し上げます。

弊団へのご寄附をいただけます際には、こちらの口座のいずれかにお振込みいただけましたら幸いです。個人として1万円以上、法人として30万円以上のご寄附をご検討いただける際は、賛助会（次ページ）も併せてご覧ください。

| 金融機関名 | 口座番号 | 口座名義 |
|---|---|---|
| ゆうちょ銀行（郵便振替） | 00120-2-30370 | 公益財団法人<br>東京フィルハーモニー<br>交響楽団 |
| 三井住友銀行・<br>東京公務部（096） | 普通預金<br>3003239 | |

※ ご寄附の金額は自由に設定いただけます。
※ 振込手数料、通信費は恐れ入りますがご負担くださいますようお願い申し上げます。
※ 領収証書が必要な方は、お手数ですがお振込後に、別途配布しております「寄附申込書」に必要事項をご記入の上、下記へご送付ください。

寄附申込書はこちらからも取得いただけます。
https://www.tpo.or.jp/support/img/support_TPO.pdf

**【ご支援のお問合せ／寄附申込書　送付先】**

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団·広報渉外部　寄附担当
〒163-1408　東京都新宿区西新宿3-20-2　東京オペラシティタワー8階
Fax　03-5353-9523　　Eメール: partner@tpo.or.jp
Tel　03-5353-9521（土日祝日を除く10時～18時）

## 東京フィル　賛助会 会員募集中

2023年に東京フィルハーモニー交響楽団は創立112年を迎えました。

これまでの歩みは、東京フィルとその音楽を愛する皆様の日頃からの大きなご支援とご助力なしには実現しえないものでした。心より御礼申し上げます。

東京フィルは 1月をシーズンのスタートに据え、年間を通じて皆様の暮らしに音楽をお届けしてまいります。国際的に活躍する音楽家や将来を嘱望される若い演奏家を招いての定期演奏会や「午後のコンサート」シリーズ、「第九」「ニューイヤーコンサート」などの特別演奏会や提携都市公演、学校や公共施設での音楽活動を通じ、今後も社会に広くオーケストラの価値を認知いただけるよう活動を続けてまいります。この活動を通じて、日本の芸術文化の発展に寄与し、今後ますます多様化・複雑化するグローバル社会において不可欠な心の豊かさ・寛容さを育み、次世代へと続く文化交流の懸け橋となるよう、より一層努めてまいります。

ぜひとも皆様方からの継続的なご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団

## 賛助会（法人／パートナー（個人））会員の種別

| 種別 | | 年会費1口 | |
|---|---|---|---|
| オフィシャル・サプライヤー | | 詳細はお問い合わせください。 | |
| 法人会員 | 賛助会員 | 50万円 | ※東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。<br>その他特典、お申込みや資料請求など、詳しくは東京フィル広報渉外部担当へお問合せください。 |
| | 後援会員 | 30万円 | |
| パートナー会員 | ワンハンドレッドクラブ | 100万円 | |
| | フィルハーモニー | 50万円 | |
| | シンフォニー | 30万円 | |
| | コンチェルト | 10万円 | |
| | ラプソディ | 5万円 | |
| | インテルメッツォ | 3万円 | |
| | プレリュード | 1万円 | |

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「ご支援カウンター」または東京フィル担当（partner@tpo.or.jp）までお尋ねください。資料をお送りいたします。ご入会の後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

**【賛助会に関するお問合せ・お申込み】**

東京フィルハーモニー交響楽団　広報渉外部（担当：星野・鹿又（かのまた））
電話：03-5353-9521（平日10時～18時）　Eメール：partner@tpo.or.jp

## 皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。

### フランチャイズ･ホール、事業提携都市との連携

東京フィルは、フランチャイズ･ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。

### 文化庁「舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演事業）」

文化庁が主催する本事業として、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。東京フィルは国内オーケストラでは唯一、文化庁から8年間の長期採択を受け（2014～2021年度）、東日本大震災地域を含む北海道･東北地区の小中学校115校、のべ46,279名の児童･生徒、地域の皆様と交流を行い、2019年度からは、これに加え、関東･東海･中国地区の小中学校61校のべ20,389名の児童･生徒に音楽をお届けしました。2022（令和4）年度の「文化芸術による子供育成推進事業」では、東京フィルは中国地区の担当として新たに長期採択（2022～2024年度）を受けました。今年度も6月から12月にかけ、小中学校を訪問し、ワークショップとオーケストラ公演を開催する予定です。

小学校体育館でのオーケストラ本公演

### 留学生の演奏会ご招待…留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきます。詳しくは東京フィルチケットサービス（03-5353-9522）までお問合せください。

定期演奏会に来場のJICA東京研修生の皆様とチョン･ミョンフン（2019年7月東京オペラシティ定期）

©上野隆文

## “とどけ心に”特別招待シート

東京フィルでは2011年の東日本大震災をきっかけに、自然災害などやむを得ない事情により国や地域を問わず故郷から避難されているかたがたを当団の主催公演にご招待する取り組みを行っています。招待をご希望の方は、東京フィルチケットサービス（03-5353-9522）まで、支援団体として東京フィルの演奏会を活用したいという場合は、東京フィル事務局（03-5353-9521）広報渉外部担当までご相談ください。

### ご来場いただけなくなった定期演奏会チケットのご寄附について

東京フィルでは、ご購入いただきながらご来場いただけなくなった定期演奏会のチケットをご寄附いただき「留学生招待シート」「“とどけ心に”特別招待シート」として活用させていただいております。お手元にご来場いただけない公演チケットがございましたら、ぜひ東京フィルへご寄附ください。大切に使わせていただきます。

**【お問合せ・お申込み】東京フィルチケットサービス**
電話：03-5353-9522（10時～18時／土日祝休）

6月の演奏会のチケットのご寄附をいただきました。心より御礼申し上げます。

M.komiya、樋口 順子、O.T、齊藤 充、堀田 有幸、高坂 麻由子
（ほか匿名希望8名）

（五十音順・敬称略）

## 特別公演、公演協賛、広告のご案内

東京フィルハーモニー交響楽団は、様々な音楽活動を通して、企業様の大切な節目である周年記念事業や式典、福利厚生イベント等でご活用いただけるオンリーワンの特別企画を展開しております。

- **商品のプロモーションとして何か施策を考えたい**
- **社内向けイベントで室内楽の演奏を企画したい**
- **東京フィルの公演プログラムに広告を掲載したい**
- **新製品、サンプルを会場で販売・配布したい**

どうぞお気軽にご用命ください。

日中国交正常化45周年記念上海公演後のレセプションにて

**【広告・協賛のお問合せ】**東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部
電話：03-5353-9521（平日10時～18時）　Eメール：partner@tpo.or.jp

# 東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員
Tokyo Philharmonic Orchestra Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督
Honorary Music Director

チョン・ミョンフン
Myung-Whun Chung

首席指揮者
Chief Conductor

アンドレア・バッティストーニ
Andrea Battistoni

桂冠指揮者
Conductor Laureate

尾高 忠明
Tadaaki Otaka

大野 和士
Kazushi Ono

ダン・エッティンガー
Dan Ettinger

特別客演指揮者
Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ
Mikhail Pletnev

アソシエイト・コンダクター
Associate Conductor

チョン・ミン
Min Chung

永久名誉指揮者
Permanent Honorary Conductor

山田 一雄
Kazuo Yamada

永久楽友・名誉指揮者
Permanent Member and
Honorary Conductor

大賀 典雄
Norio Ohga

コンサートマスター
Concertmasters

近藤 薫
Kaoru Kondo

三浦 章宏
Akihiro Miura

依田 真宣
Masanobu Yoda

第1ヴァイオリン
First Violins

小池 彩織☆
Saori Koike

榊原 菜若☆
Namo Sakakibara

坪井 夏美☆
Natsumi Tsuboi

平塚 佳子☆
Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之
Yoshiyuki Asami

浦田 絵里
Eri Urata

景澤 恵子
Keiko Kagesawa

加藤 光
Hikaru Kato

巖築 朋美
Tomomi Ganchiku

坂口 正明
Masaaki Sakaguchi

鈴木 左久
Saku Suzuki

高田 あきの
Akino Takada

田中 秀子
Hideko Tanaka

栃本 三津子
Mitsuko Tochimoto

中澤 美紀
Miki Nakazawa

中丸 洋子
Hiroko Nakamaru

廣澤 育美
Ikumi Hirosawa

弘田 聡子
Satoko Hirota

藤瀬 実沙子
Misako Fujise

松田 朋子
Tomoko Matsuda

第2ヴァイオリン
Second Violins

藤村 政芳◎
Masayoshi Fujimura

水鳥 路◎
Michi Mizutori

宮川 正雪◎
Masayuki Miyakawa

小島 愛子☆
Aiko Kojima

高瀬 真由子☆
Mayuko Takase

石原 千草
Chigusa Ishihara

出原 麻智子
Machiko Idehara

太田 慶
Kei Ota

葛西 理恵
Rie Kasai

佐藤 実江子
Mieko Sato

二宮 祐子
Yuko Ninomiya

本堂 祐香
Yuuka Hondo

山代 裕子
Yuko Yamashiro

吉田 智子
Tomoko Yoshida

吉永 安希子
Akiko Yoshinaga

若井 須和子
Suwako Wakai

渡邉 みな子
Minako Watanabe

ヴィオラ
Violas

須田 祥子◎
Sachiko Suda

須藤 三千代◎
Michiyo Suto

髙平 純◎
Jun Takahira

加藤 大輔○
Daisuke Kato

今川 結☆
Yui Imagawa

杉浦 文☆
Aya Sugiura

伊藤 千絵
Chie Ito

岡保 文子
Ayako Okayasu

曽和 万里子
Mariko Sowa

高橋 映子
Eiko Takahashi

手塚 貴子
Takako Tezuka

中嶋 圭輔
Keisuke Nakajima

蛭海 たづ子
Tazuko Hirumi

古野 敦子
Atsuko Furuno

村上 直子
Naoko Murakami

森田 正治
Masaharu Morita

チェロ
Cellos

金木 博幸◎
Hiroyuki Kanaki
服部 誠◎
Makoto Hattori
渡邉 辰紀◎
Tatsuki Watanabe
黒川 実咲☆
Misaki Kurokawa
高麗 正史☆
Masashi Korai
石川 剛
Go Ishikawa
大内 麻央
Mao Ouchi
太田 徹
Tetsu Ota
菊池 武英
Takehide Kikuchi
佐々木 良伸
Yoshinobu Sasaki
長谷川 陽子
Yoko Hasegawa
渡邊 文月
Fuzuki Watanabe

コントラバス
Contrabasses

片岡 夢児◎
Yumeji Kataoka
黒木 岩寿◎
Iwahisa Kuroki
遠藤 柊一郎
Shuichiro Endo
小笠原 茅乃
Kayano Ogasawara
岡本 義輝
Yoshiteru Okamoto
小栗 亮太
Ryota Oguri
熊谷 麻弥
Maya Kumagai
菅原 政彦
Masahiko Sugawara
田邊 朋美
Tomomi Tanabe
中村 元優
Motomasa Nakamura

フルート
Flutes

神田 勇哉◎
Yuya Kanda
斉藤 和志◎
Kazushi Saito
吉岡 アカリ◎
Akari Yoshioka
さかはし 矢波
Yanami Sakahashi

オーボエ
Oboes

荒川 文吉◎
Bunkichi Arakawa
加瀬 孝宏◎
Takahiro Kase
佐竹 正史◎
Masashi Satake
岡村 彩香
Ayaka Okamura
杉本 真木
Maki Sugimoto
若林 沙弥香
Sayaka Wakabayashi

クラリネット
Clarinets

アレッサンドロ・ベヴェラリ◎
Alessandro Beverari
万行 千秋◎
Chiaki Mangyo
黒尾 文恵
Fumie Kuroo
鳥潟 さくら
Sakura Torigata
林 直樹
Naoki Hayashi

ファゴット
Bassoons

チェ・ヨンジン◎
Young-Jin Choe
廣幡 敦子◎
Atsuko Hirohata
井村 裕美
Hiromi Imura
桔川 由美
Yumi Kikkawa
森 純一
Junichi Mori

ホルン
Horns

齋藤 雄介◎
Yusuke Saito
高橋 臣宜◎
Takanori Takahashi
磯部 保彦
Yasuhiko Isobe
大東 周
Shu Ohigashi
木村 俊介
Shunsuke Kimura
田場 英子
Eiko Taba
塚田 聡
Satoshi Tsukada
豊田 万紀
Maki Toyoda
山内 研自
Kenji Yamanouchi
山本 友宏
Tomohiro Yamamoto

トランペット
Trumpets

川田 修一◎
Shuichi Kawata
野田 亮◎
Ryo Noda
古田 俊博◎
Toshihiro Furuta
杉山 眞彦
Masahiko Sugiyama
前田 寛人
Hirohito Maeda

トロンボーン
Trombones

中西 和泉◎
Izumi Nakanishi
辻 姫子○
Himeko Tsuji
石川 浩
Hiroshi Ishikawa
五箇 正明
Masaaki Goka
山内 正博
Masahiro Yamauchi

テューバ
Tubas

大塚 哲也
Tetsuya Otsuka
荻野 晋
Shin Ogino

ティンパニ&パーカッション
Timpani & Percussion

岡部 亮登◎
Ryoto Okabe
塩田 拓郎◎
Takuro Shiota
秋田 孝訓
Takanori Akita
木村 達志
Tatsushi Kimura
鷹羽 香緒里
Kaori Takaba
中村 勇輝
Yuki Nakamura
縄田 喜久子
Kikuko Nawata
船迫 優子
Yuko Funasako
古谷 はるみ
Harumi Furuya

ハープ
Harps

梶 彩乃
Ayano Kaji
田島 緑
Midori Tajima

ライブラリアン
Librarians

武田 基樹
Motoki Takeda

ステージマネージャー
Stage Managers

稲岡 宏司
Hiroshi Inaoka
大田 淳志
Atsushi Ota
古谷 寛
Hiroshi Furuya

◎首席奏者
Principal

○副首席奏者
Assistant Principal

☆フォアシュピーラー
Vorspieler

## 東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督にチョン･ミョンフン、首席指揮者アンドレア･バッティストーニ、特別客演指揮者にミハイル･プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホール、東京オペラシティ コンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会や「渋谷／平日／休日の午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ･バレエ演奏、『名曲アルバム』『NHKニューイヤーオペラコンサート』『題名のない音楽会』『東急ジルベスターコンサート』『NHK紅白歌合戦』『いないいないばあっ!』などの放送演奏により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として高水準の演奏活動と様々な教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、国内外から高い評価と注目を集めている。2020～21年のコロナ禍における取り組みはMBS『情熱大陸』、NHK BS1『BS1スペシャル 必ずよみがえる～魂のオーケストラ 1年半の闘い～』などのドキュメンタリー番組で取り上げられた。

1989年よりBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

## Tokyo Philharmonic Orchestra

In 2023, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrates its 112th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 160 musicians, TPO performs both symphonies and operas regularly. TPO is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting TPO since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

TPO has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad.

TPO has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano and Nagaoka City in Niigata.

Official Website / SNS **https://www.tpo.or.jp/**

©上野隆文

東京フィルWEB

# 役員等·事務局·団友

## 役員等（理事·監事および評議員）

理事長
三木谷 浩史

副理事長
黒柳 徹子

専務理事
石丸 恭一

常務理事
工藤 真実

理事
浮舟 邦彦
大賀 昭雄
大塚 雄二郎
小山田 隆
篠澤 恭助
田沼 千秋
寺田 琢
遠山 敦子
野本 弘文
韓 昌祐
平井 康文
宮内 義彦

監事
岩崎 守康
山野 政彦

評議員
伊東 信一郎
海老澤 敏
佐治 信忠
鈴木 勲
鈴木 啓介
瀬谷 博道
日枝 久

## 事務局

楽団長
石丸 恭一

事務局長
工藤 真実

公演事業部
市川 悠一
岩崎 井織
大久保 里香
大谷 絵梨奈
佐藤 若菜
村尾 真希子

ステージマネージャー
稲岡 宏司
大田 淳志
古谷 寛

ライブラリアン
武田 基樹

広報渉外部
伊藤 唯
鹿又 紀乃
千木 加寿子
二木 憲史
星野 友子
松井 ひさえ
安田 ひとみ

総務·経理
川原 明夫
鈴木 美絵

## 団友

安藤 栄作
池田 敏美
糸井 正博
今井 彰
井料 和彦
岩崎 龍彦
植木 佳奈
上野 眞行
生方 正好
大兼久 輝宴
大澤 昌生
大和田 皓
岡部 純
小樽 敦子
小山 智子
甲斐沢 俊昭
加藤 明広
加藤 博文
金崎 真由美
川人 洋二
木村 友博
黒川 正三
河野 啓子
近藤 勉
今野 芳雄
齊藤 匠
坂口 和子
嵯峨 正雄
嵯峨 美穂子
桜木 弘子
笹 翠
佐々木 等
佐野 恭一
清水 真佐子
瀬尾 勝保
高岩 紀子
高野 和彦
高村 千代子
竹林 良
竹林 陽子
田中 千枝
田村 武雄
津田 好美
戸坂 恭毅
長池 陽次郎
長岡 慎
長倉 穣司
新田 清枝
新田 伸雄
二宮 純
野仲 啓之助
畑中 和子
玻名城 昌子
福村 忠雄
藤原 勲
古野 淳
細川 克己
細洞 寛
本田 詩子
松澤 久美子
湊 貞男
宮原 真弓
山屋 房子
吉田 啓義
米倉 浩喜
脇屋 俊介

〈発行日〉2023（令和5）年7月23日　〈発行人〉石丸 恭一
〈発行所〉東京フィルハーモニー交響楽団
〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8F　Tel 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523
フランチャイズ·ホール: Bunkamuraオーチャードホール　提携: 千葉市 文京区 軽井沢町 長岡市
〈デザイン〉米田デザイン事務所　〈表紙画〉ハラダチエ　〈編集協力〉ひとま舎
〈印　刷〉欧文印刷株式会社
©Tokyo Philharmonic Orchestra ＊無断転載を禁ず（非売品）

## ～コンサートをお楽しみいただくために～

### ♪チケットの座席番号をチェック！

・本日のコンサートは全席指定です。チケットに記載されたお席にご着席ください。

### ♪開演時間をチェック！

・時間に余裕をもってご着席ください。演奏中のご入場は、かたくお断りいたします。
楽章間の入場も楽曲の進行により制限させていただきます。
・曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬようご配慮ください。

### ♪開演前に、お手元のお荷物や電子機器をチェック！

・許可のない録音・録画は固くお断りいたします。
・演奏中に、時計やスマートフォン、その他電子機器のアラーム音やディスプレイの光が漏れないよう、電源をお切りいただくか、マナーモードの設定をいま一度ご確認ください。
・動いたときに音の出る衣類やバッグ等は足元に。
・のど飴類は開封時に音が出ないものをご準備ください。咳が出そうな日はあらかじめお手元やお口の中に。

### ♪演奏中に気を付けたいことも同時にご確認を！

・演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございます。

マナーを守ってコンサートをお楽しみください♪

### 当団の実施する新型コロナウイルス感染症予防対策について

・会場内でのマスク着脱はお客様ご自身の判断に委ねます。
・会場内でブラボー等の声援をされるお客様にはマスクの着用を推奨いたします。
・発熱等の体調不良のお客様にはご来場を控えていただきますようお願いいたします。
・会場内では咳エチケットおよび手指消毒の実施をお願いいたします。
客席内は十分な換気を行っております。

ご協力、誠にありがとうございます。

Tokyo Philharmonic Orchestra
Season 2023

こころの時間